

取扱説明書 抜粋版

WEB上のデジタル取扱説明書に
すべての情報を掲載しています。
以下のQRコードからご覧ください。



AQUA



本書は取扱説明書の 抜粋版です

本書は、万一の場合に必要な情報、安全に関する情報のみ掲載しています。

詳しくはデジタル取扱説明書をご利用ください。

WEB 掲載のデジタル取扱説明書を利用する



デジタル取扱説明書に、すべての取扱情報を掲載しています。

表紙のQRコードを読み取ってご利用ください。

安全・安心に運転いただくために、乗車前に本書を必ずお読みください。

また、運転時はいつでも確認できるよう、車内に保管しておくことをおすすめします。

詳しい取扱情報やフリー／オープンソースソフトウェア情報については、デジタル取扱説明書をご覧ください。

はじめに

本書（取扱説明書 抜粋版）の 見方	2
デジタル取扱説明書（全文）に ついて	3
安全なご利用について	4

1 安全上のご注意

1-1. 取扱説明書

安全・安心のために	14
走行に関する情報表示	37
運転する前に	39
運転	49
室内装備・機能	84
お手入れのしかた	90
万一の場合には	98
車両情報	107

1-2. マルチメディア取扱説明書

はじめに	108
マルチメディアシステムの操 作および設定	109
スマートフォンや通信機器の 接続	110
ナビゲーション	111
オーディオシステム	112
T-Connect	113
駐車支援システム	117
ETCの利用	125
付録	126

2 トラブルに対処する

2-1. トラブルに対処する

車両が故障したときの対応	128
車両を緊急停止するには	130
けん引について	132
警告灯がついたときは	134
警告メッセージが表示された ときは	140

パンクしたときは	149
電子キーが正常に働かないと きは	151
補機バッテリーがあがったと きは	152
オーバーヒートしたときは	153
スタックしたときは	155

3 各部の名称と働き

3-1. 各部の名称と働き

運転席まわり	158
スイッチ操作	159
ステアリングスイッチ操作	161
メーター表示	162

4 正しい運転姿勢と運転

4-1. 正しい運転姿勢と運転

フロントシートを調整する	164
ヘッドレストを調整する	165
ハンドルの上下／前後位置を 調整する	166
インナーミラーの位置を調整 する	167
ドアミラーの角度を調整する ...	168
シートベルトを正しく着用す る	169
シフトポジションを切りかえ る	171
パーキングブレーキをかける ...	173

本書（取扱説明書 抜粋版）の見方

本文の記号の意味

各記号とその意味は次のとおりです。



● 警告

お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



● 注意

お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

¹ ² ³ ...

● 手順番号

操作／作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。



● 知識

機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト上の記号の意味

各記号とその意味は次のとおりです。



● 押す、まわすなど、していただきたい操作を示しています。



● フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



● 説明の対象となるもの／場所を示しています。



● してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでくださいという意味です。

デジタル取扱説明書（全文）について

詳しい取扱情報については、デジタル取扱説明書をご覧ください。デジタル取扱説明書には最新の情報を掲載しています。

https://manual.toyota.jp/aqua/3133/hev/ja_JP/contents/home.php



QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

安全なご利用について

「安全なご利用について」は代表的な車種をもとに説明しています。そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。

車の点検整備のお願い

■ 車両の点検／整備

エンジン＜ハイブリッドシステム＞始動前に、日常点検を実施してください。日常点検で異状を見つけたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。点検方法については、別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。

■ ハイブリッドシステム取扱い上の注意

ハイブリッドシステムには、高電圧の部位や高温になる部位があります。取り扱いにはご注意ください。

■ 車両の不正改造と影響

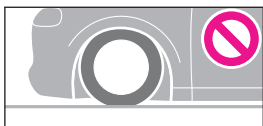
不正改造とは、車の保安基準を満たさない改造を行うことです。

保安基準を満たさない部品の取り付けや、保安基準で定められた部品の取り外しなども、不正改造になります。

不正改造車は、公道を走行できません。もし走行してしまうと、ドライバーだけでなく、周りの人たちの安全を脅かすおそれがあります。

■ 車両の不正改造の例とそれに伴う危険性

▶ 車高の変更



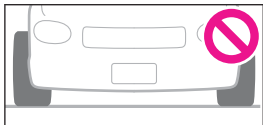
ステアリング操作等への影響

▶ フロントガラスへの着色フィルム等の貼り付け



運転時の視野の確保における影響

▶ タイヤのはみ出し取り付け



歩行者等に危害を与えるおそれ

▶ ランプ類の変更

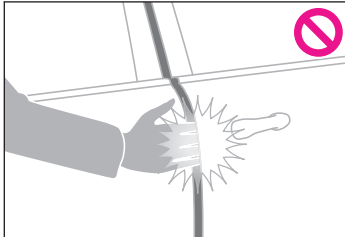


他の交通への誤認や事故を誘発するおそれ

ドア／窓に挟み込まれないために

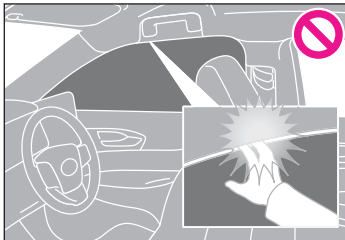
ドアや窓、トランク、バックドア、ムーンルーフの開閉時に体を挟んだり、壁や天井などにぶついたりしないように注意してください。

■ イージークローザー（自動閉じ装置）★作動中の注意



イージークローザー（自動閉じ装置）には、自動で動作を止める機能はついていません。ドアやトランク、バックドアを閉めるときは、体を挟まないように注意してください。

■ パワーウィンドウ作動中の注意



ドアガラスが完全に閉まる直前は、挟み込みを防止する機能が作動しないことがあります。

また、スイッチを引き続けた状態では挟み込みを防止する機能は作動しません。体を挟まないようにご注意ください。

ドアガラスを閉めるときは、体を挟まないように注意してください。特に、子どもが体を外に出さないように、声かけをしてください。

フロアマットの状態確認

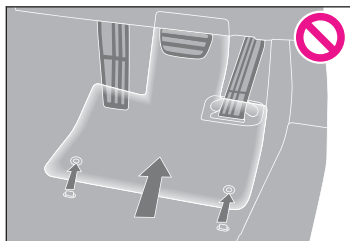
次のことを必ずお守りください。

- フロアマットをすべての固定フック（クリップ）で、正しい位置にしっかりと固定してください。
- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しないでください。
- 運転席専用のフロアマットを使用してください。
- 他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。
- 各ペダルを奥まで踏み込んでも、フロアマットと干渉しないことを確認してください。確認は、エンジン＜ハイブリッドシステム＞が停止している状態

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

およびシフトポジションがP（オートマチック車）またはN（マニュアル車）の状態で行ってください。

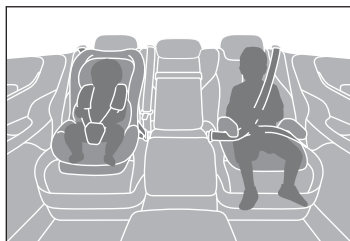
▶ オートマチック車の例



子どもを車に乗せるときは

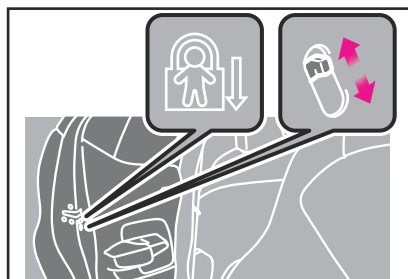
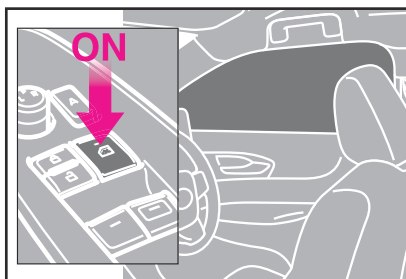
子どもを車に乗せるときは、次のことを必ずお守りください。思わぬ事故や重大な傷害につながるおそれがあります。また、最悪の場合には死亡事故につながるおそれがあります。

● 子どもにもシートベルトを着用する



シートベルトを正しく着用できない小さな子どもを乗せるときは、チャイルドシートを使用してください。チャイルドシートは、子どもを安全に守るように設計されています。

- 子どもはリヤシートに乗せる
- 子どもには、パワーウィンドウ、ドア、およびシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。
- 子どもがドアやパワーウィンドウの開閉などでけがをしないように、チャイルドプロテクターやウィンドウロックスイッチを使用してください。



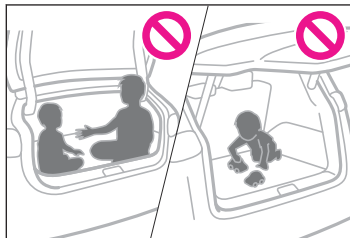
- 車を離れるときは、子どもを連れて出る



子どもだけを車の中に残さないでください。日中の車内は非常に高温になるため、重大な健康障害につながるおそれがあります。

また、子どものいたずらにより、車の誤発進や車両火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。

● 座席以外に人を乗せない



トランクやラゲージルームなどに誤って閉じ込められた場合、重大な健康障害につながるおそれがあります。

チャイルドシートの利用



シートベルトを正しく着用できない小さな子どもを乗せるときは、チャイルドシートを使用してください。チャイルドシートは、子どもを安全に守るように設計されています。

チャイルドシートはリヤシートに取り付けることを推奨します。安全のため、チャイルドシートは、リヤシートに取り付けてください。

チャイルドシートは子どもの体格にあった適切なものを用意してください。

チャイルドシートの取り付け前には、必ずチャイルドシートに付属する取扱説明書をよくお読みください。

● 助手席にチャイルドシートを取り付ける場合



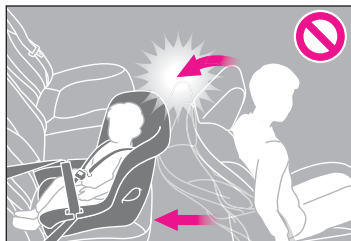
やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、必ず前向きに取り付けてください。チャイルドシートを後ろ向きに取り付けていると、SRSエアバッグが作動したときの衝撃で重大な傷害を受け、死亡に至るおそれがあります。

● 助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合



助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、助手席をいちばん後ろに下げてください。SRSエアバッグが作動したときの衝撃で重大な傷害を受け、死亡に至るおそれがあります。

● 運転席と干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合



運転席を調整したときに、チャイルドシートと運転席が干渉する場合は、助手席側のリヤシートにチャイルドシートを取り付けてください。

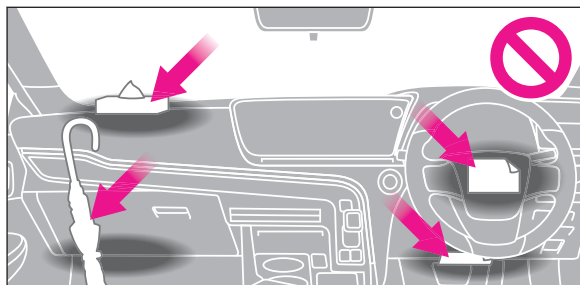
助手席とチャイルドシートが干渉しないように、助手席を調整してください。

SRSエアバッグの効果を最大限発揮するために

SRSエアバッグは、乗員に重大な危害がおよぶほどの強い衝撃を受けたときにふくらみます。SRSエアバッグとシートベルトの働きによって、乗員への衝撃を緩和します。

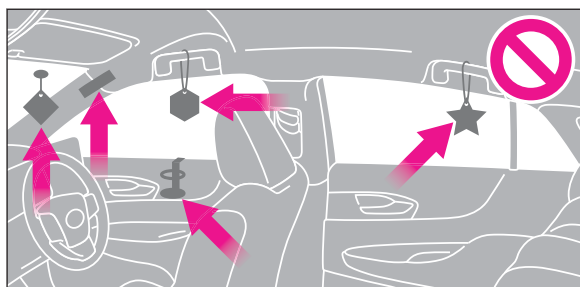
■ SRSエアバッグの効果を得るために

SRSエアバッグが展開する次のような部位に何かを付けたり、置いたり、かけたりしないでください。SRSエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムが作動しない、または誤って作動するおそれがあります。



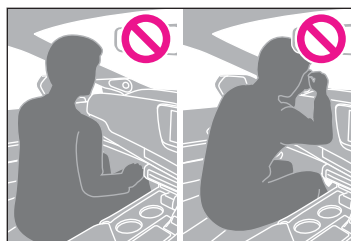
- ダッシュボード
- ハンドルのパッド部分
- インストルメントパネル下部
- ドア
- フロントガラス
- ドアガラス
- フロントピラーおよびリヤピラー
- ルーフサイドレール
- アシストグリップ

また、コートフックにはハンガーなどのかたいものをかけないでください。



正しい姿勢で乗車しないと、SRS エアバッグ作動時の強い衝撃によって、重大な傷害を受けることがあります。次の内容に従って、正しい姿勢で乗車してください。

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない。



- ドアやフロントピラー／センターピラー／リヤピラー／ルーフサイドレールへ寄りかからない。

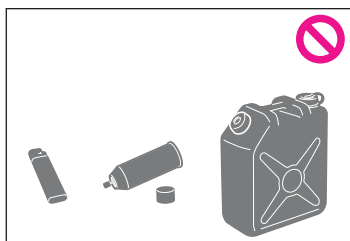


■ SRS エアバッグ展開時の注意事項

SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、SRS エアバッグにふれないでください。

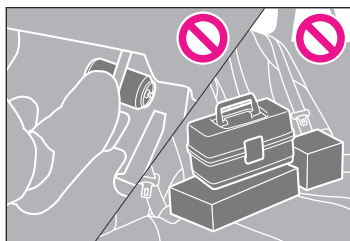
荷物を積み込むときは

■ 車両に積んではいけないもの



燃料が入った容器やスプレー缶などの揮発性や発火性のあるものを積むと、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ 車両に荷物を積むときの警告事項

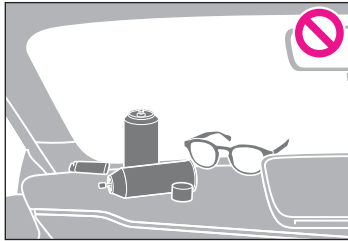


次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 次の場所には荷物を積まないでください。
運転席の足元／パッケージトレイ／インストルメントパネル／ダッシュボード／センターディスプレイの前
- 助手席やリヤシートには荷物を積み重ねないでください。
- 室内に積んだ荷物はすべて、しっかりと安定させてください。

カップホルダーはふたを閉じているときでも、カップや缶以外のものを置いたり、収納したりしないでください。カップホルダーには、カップや缶以外のものを置かないでください。

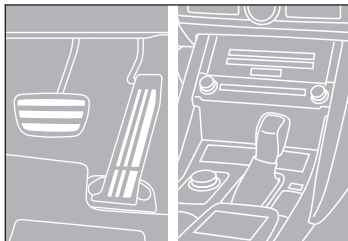
■ 車両に放置してはいけないもの



次のものを収納装備に放置しないでください。思わぬ事故や傷害につながるおそれがあります。

- メガネ
- ライター
- スプレー缶
- 炭酸飲料の缶など

事故を起こさないためにペダルの位置とシフトポジションを確認する

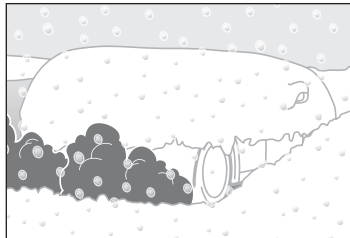


次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
- 発進や後退をするときは、適切なシフトポジションが選択されていることを確認してください。
- 後退するときは、ペダルの踏み間違いや踏みすぎに注意してください。

天候や路面状況に応じた駐停車

■ 降雪時や雪が積もった場所で駐車するとき



エンジンをかけたまま＜ハイブリッドシステムを作動させたまま＞にしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります

■ 停車するときの警告事項

長時間、エンジンをかけたまま＜ハイブリッドシステムを作動させたまま＞にしないでください。排気ガスが車内に侵入し、人体に害をおよぼすおそれがあります。

やむを得ず、長時間エンジンをかけたまま＜ハイブリッドシステムを作動させたまま＞にする場合は、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入っていないことを確認してください。また、可燃物の近くに停車しないでください。

1-1. 取扱説明書

安全・安心のために.....	14
走行に関する情報表示.....	37
運転する前に.....	39
運転.....	49
室内装備・機能.....	84
お手入れのしかた.....	90
万一の場合には.....	98
車両情報.....	107

1-2. マルチメディア取扱説明書

はじめに.....	108
マルチメディアシステムの操 作および設定.....	109
スマートフォンや通信機器の 接続.....	110
ナビゲーション.....	111
オーディオシステム.....	112
T-Connect.....	113
駐車支援システム.....	117
ETCの利用.....	125
付録.....	126

安全・安心のために

運転する前に

フロアマット

▲ 警告

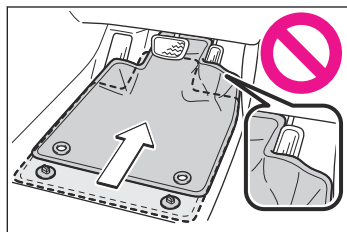
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■ 運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う



- ハイブリッドシステム停止およびシフトポジションがPの状態、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

正しい運転姿勢について

▲ 警告

■ 安全な運転のために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。

▲ 警告

- フロントシートの下にものを置かないでください。ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

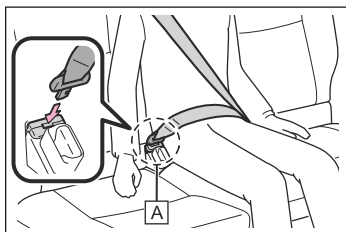
▲ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

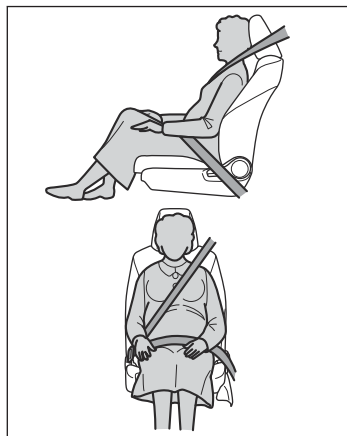
■ シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使わない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- リヤ中央席のシートベルトを使用するときは、図の **A** 部分が結合されていることを確認する
結合されていない場合は結合してから使用する

▲ 警告



■ 妊娠中の女性の場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。^{*1} 通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまを乗せるとき

^{*1}

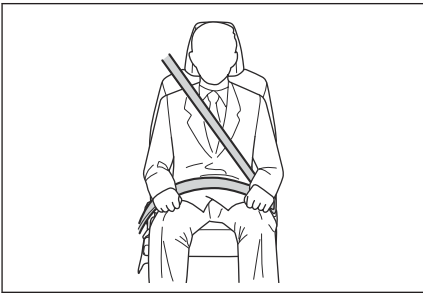
■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

^{*1}: WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

▲ 警告

- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

正しく着用する

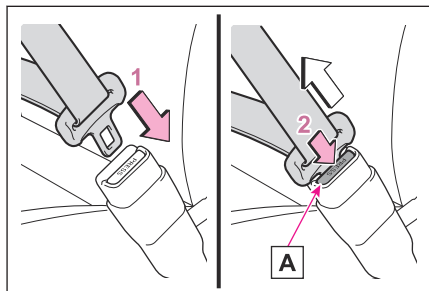
- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれないようにする

□ 知識**■ お子さまのシートベルトの使い方**

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合った子供専用シートを使用してください。(→ P.23)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。

着け方・はずし方



- 1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートバックルに挿し込む
- 2 ベルトを解除するには、解除ボタン[A]を押す

□ 知識

■ シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

シートベルトプリテンショナー

▲ 警告

■ プリテンショナー付きシートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグシステム

▲ 警告

■ SRS エアバッグについて

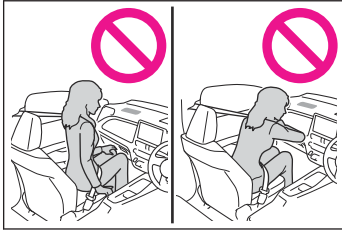
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗

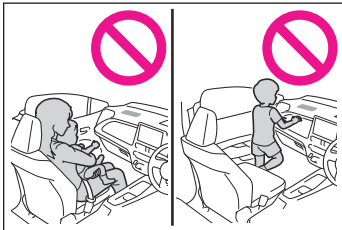
▲ 警告

員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはリヤ席に乘坐、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。^{*1}
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない



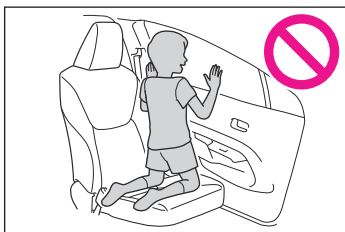
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



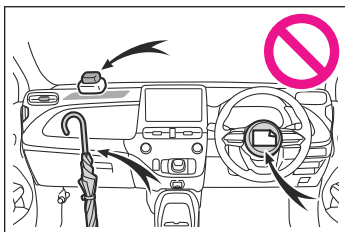
- ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

^{*1}: WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

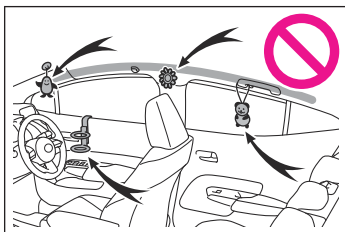
▲ 警告



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア・フロントウィンドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く^{*1}）



- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- エアバッグがふくらむ場所を覆うようなアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

^{*1}: WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

▲ 警告

- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されている部分に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

■ 改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- 次の部品周辺の修理・取りはずし・改造
 - ・ ハンドル
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
 - ・ シート
 - ・ シート表皮
 - ・ フロントピラー
 - ・ センターピラー
 - ・ リヤピラー
 - ・ ルーフサイドレール
 - ・ フロントドアパネル
 - ・ フロントドアトリム
 - ・ フロントドアスピーカー
- フロントドアパネルの穴あけなどの改造
- 次の部品やその周辺の修理・改造
 - ・ フロントフェンダー
 - ・ フロントバンパー
 - ・ 車内側面部
- 次の部品、または装置の取り付け
 - ・ グリルガード
 - ・ 除雪装置
 - ・ ウインチ
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

排気ガスに対する注意

▲ 警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、ハイブリッドシステムを停止してください。
- 長時間ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■ 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

▲ 警告

■ お子さまを乗せるときは

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。^{*1}

^{*1}: WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

チャイルドシート

知っておいていただきたいこと

▲ 警告

■ お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■ チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いので、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください^{*1}。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは

▲ 警告

■ チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 助手席ターンチルトシート装着車：

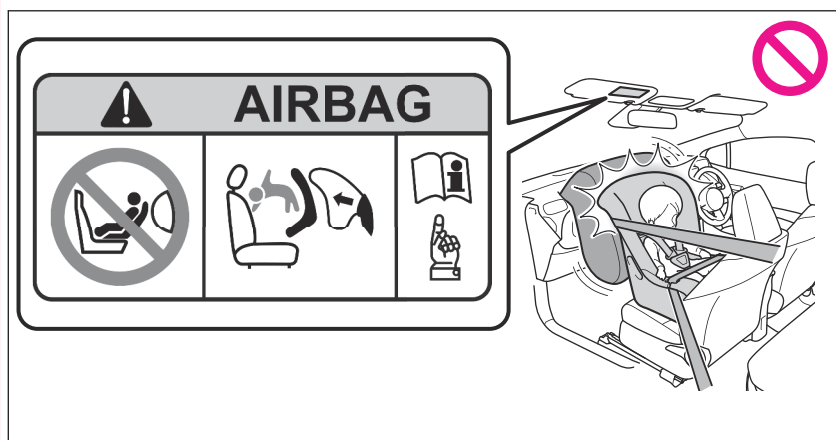
*1: WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

▲ 警告

助手席にチャイルドシートを装着しないでください。装置の破損や、お子さまが重大な傷害につながるおそれがあります。

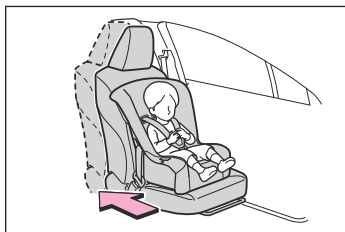
● 助手席ターンチルトシート非装着車：

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

▲ 警告**▲ 警告**

● 助手席ターンチルトシート非装着車：

やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



● チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけな

▲ 警告

いようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶが、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。
- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性一覧表について

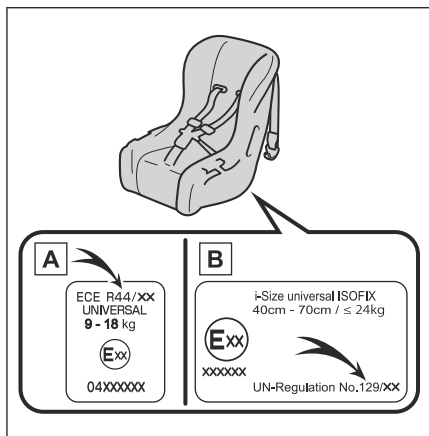
シート位置別チャイルドシートの適合性^{*1}は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。^{*1}次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 チャイルドシートの規格を確認する

^{*1}: WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

UN(ECE) R44^{*1} または、UN(ECE) R129^{*1} に適合したチャイルドシートを使用してください。適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。



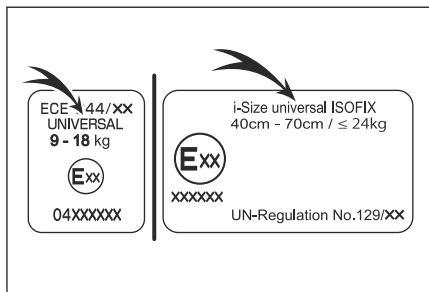
法規番号の表示例

- A** UN(ECE) R44 認可マーク^{*2}
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。
- B** UN(ECE) R129 認可マーク^{*2}
対象となるお子さまの身長および使用可能な体重が記載されています。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

- ユニバーサル「universal（汎用）」
- セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
- リストリクティッド「restricted（限定）」
- ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」

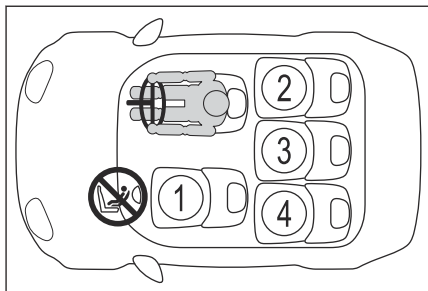


^{*1}: UN(ECE) R44、UN(ECE) R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

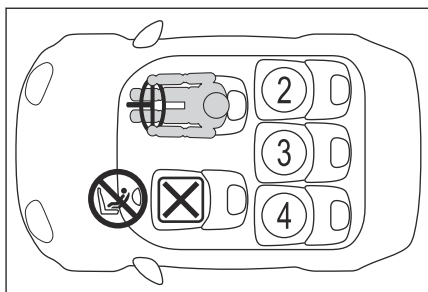
^{*2}: 表示されているマークは、商品により異なります。

シート位置別チャイルドシートの適合性

▶ 助手席ターンチルトシート非装着車



▶ 助手席ターンチルトシート装着車



① *1 *2 *3	UF *4
② *2*3	UL 
③ *2*3	U
④ *2*3	UL 



車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。



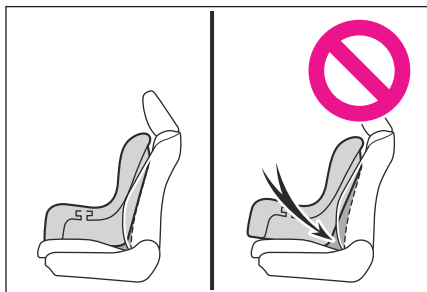
車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取付けるユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。



推奨チャイルドシートと適合性一覧表^{*5}に記載されたチャイルドシートに適しています。

*1: シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

*2: 背もたれを可能な限り起こしてください。前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



*3: ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

*4: チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

*5: WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。



i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。



トップテザーアンカレッジが装備されています。



チャイルドシートの取り付けに適していません。



やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。

チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置				
シート位置の番号	①	②	③	④
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有/無）	有 前向きのみ	有	有	有
アイサイズ着座位置（有/無）	×	有	×	有
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2）	×	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1/R2X/R2/R3）	×	R1, R2X, R2, R3	×	R1, R2X, R2, R3
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X/F2/F3）	×	F2X, F2, F3	×	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2/B3）	×	B2, B3	×	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。チャイルドシートの「治具」の種類を

確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にある）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

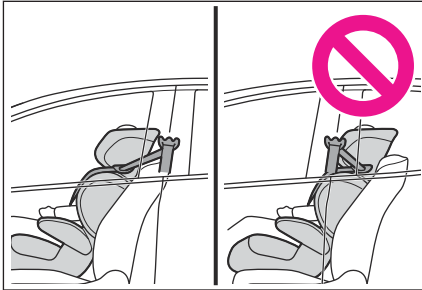
治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

推奨チャイルドシートと適合性一覧表

推奨チャイルドシート	適応範囲	搭載する向き	着座位置			
			①	②	③	④
トヨタ純正 NEO G-Child i-Size	身長：～83cm (体重：～13kg)	後向き	×	○	×	○
	月齢 15 か月以上かつ、身長：76～100cm (体重：～18kg)	前向き	×	○	×	○
トヨタ純正 NEO G-Child Junior	身長：100～150cm (体重：15～36kg)	前向きのみ	×	○	×	○

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子さまやチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉なくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- ジュニアシートを取り付けるときに、お子さまがかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ チャイルドシートの取りはずし

▲ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心になるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

▲ 警告

- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

▲ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

▲ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外に掛けないでください
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカレッジに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

ハイブリッドシステムの注意

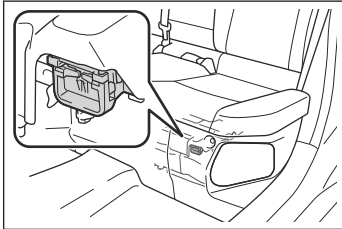
システムの構成部品

▲ 警告

■ 高電圧・高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。
- 高電圧部位にふれないでください。特に走行後は高温になっており危険です。
- サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、トヨタ販売店で車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



■ 事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 続発事故防止のため、安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにして、ハイブリッドシステムを停止する。
- 高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない
- 車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない
- 液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない。駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。
- 駆動用電池の電解液がもれている場合は、車両に近付かない。万一、駆動用電池が破損しても、電池内部の構造により大量に電解液が流出することはありませんが、流出すると蒸気を発生します。蒸気は目や皮膚に刺激性があり、吸引すると急性中毒を起こすおそれがあり危険です。
- 火気や高温のものを絶対に近付けない。電解液に引火するおそれがあり危険です。
- 万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する。水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。

▲ 警告

- 前輪（FF 車）または 4 輪（4WD 車）が接地した状態でけん引しない電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあります。^{*1}
- 車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがありますので、始動しないでください。この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

■ 駆動用電池について

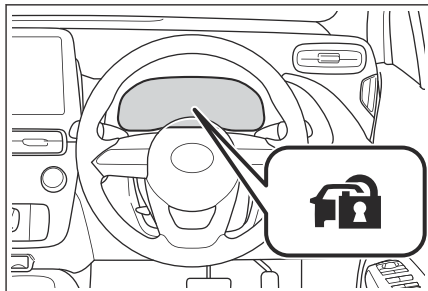
- 絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。適切に回収されない、次のようなことがおこり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - 不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位に触れてしまい、感電事故が発生する
 - 装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する

特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

- 駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクタにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄する際には、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

イモビライザーシステム

システムを作動させるには



パワースイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチを ACC または ON にするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

^{*1}: WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

 知識

■ メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

 注意

■ イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームを設定／解除／停止する

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

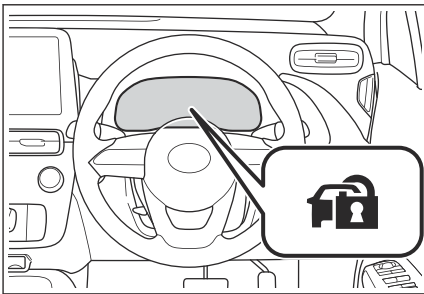
- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ オートアラームを設定するには

ドア・ボンネットを閉め、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとセキュリティ表示灯は点灯から点滅にかわります。

ボンネットが開いていても、すべてのドアが閉じていればオートアラームは設定できます。



■ オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアを解錠する

- パワースイッチを ACC または ON にするか、ハイブリッドシステムを始動する（数秒後に解除・停止します）

 知識

■ **メンテナンスについて**

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

 注意

■ **オートアラームを正常に作動させるために**

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

走行に関する情報表示

警告灯／表示灯

警告灯一覧

▲ 警告

■ 安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がパワースイッチを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

計器類

メーターの表示について

▲ 警告

■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばシフトポジション表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにポジションの表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンプレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

マルチインフォメーションディスプレイ

ディスプレイの表示／メニューアイコン一覧

▲ 警告

■ 運転中の使用について

- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けしないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■ 低温時の画面表示について

*1

*1: WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

設定について

▲ 警告

■ ディスプレイの設定を変更するとき

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行う場合、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ヘッドアップディスプレイ★

システムの構成部品

▲ 警告

■ ヘッドアップディスプレイを使用するときは

- 映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ヘッドアップディスプレイを見続けしないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

ヘッドアップディスプレイの使い方

▲ 警告

■ ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行う場合、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

運転する前に

キー

キーについて

知識

■ 電子キーの取り扱いについて

JP

電子キーは電波法の認証に適合しています。

必ず以下のことをお守り下さい。

- ・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ・必ず日本国内でご使用下さい。

00

ドア（フロントドア・リヤドア）

車外から解錠／施錠するには

警告

■ 事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない。特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ ドアを開閉するときの留意事項

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

バックドア

▲ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行する前に

- 走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームの中でお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

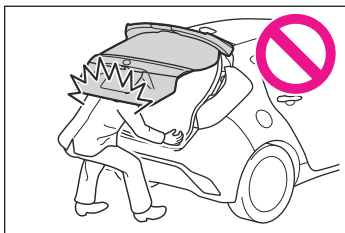
■ 走行中の留意事項

ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

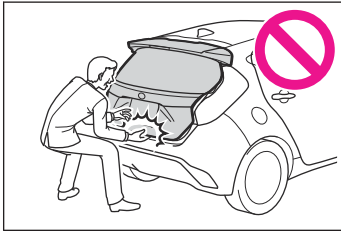
■ バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- バックドアを開ける前に、バックドア上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



- バックドアを閉めるときは、バックドアで指などを挟まないよう十分注意してください。

▲ 警告

- バックドアは必ず外からバックドア上面を軽く押して閉めてください。バックドアハンドルで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- バックドアダンパーステアを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステアが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

スマートエントリー&スタートシステム**□ 知識****■ 電子キーの取り扱いについて**

JP

電子キーは電波法の認証に適合しています。

必ず以下のことをお守り下さい。

- ・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ・必ず日本国内でご使用下さい。

00

▲ 警告**■ 電波がおよぼす影響について（スマートエントリー&スタートシステムアンテナ）**

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ*1 から約 22cm 以内に植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器が近づかないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合には、電波による影響

*1: WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

▲ 警告

について個別に医療用電気機器メーカーなどにご確認ください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与える場合があります。

スマートエントリー&スタートシステムを作動しないようにすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート★

調整のしかた

▲ 警告

■ シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■ シート調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- マニュアルシート装着車：シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

ターンチルトシート★

調整・回転するには

▲ 警告

■ シートを調整・回転するとき

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。手や足などを挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■ シート調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

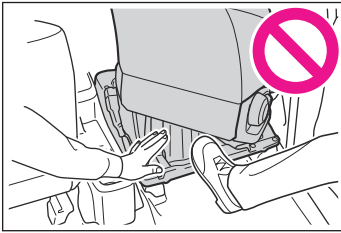
▲ 警告

- シート調整・回転後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

ターンチルトシートの操作をする前に**▲ 警告****■ ターンチルトシートを操作する前に**

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ドア開口部に頭部をあてたりしないように、乗り降りする方の頭上の安全を確認してください。
- ボデーと腕があたらないように、ターンチルトシートを勢いよく操作しないでください。
- ターンチルトシートを操作するときシート可動部などで手や足などを挟むおそれがあります。



- ターンチルトシートに深く着座できない方、ひざや首が曲がらない方の場合は、足や頭がボデーにあたり、座った状態でのシートの回転が困難になりますのでご注意ください。

降車するには**助手席****▲ 警告**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 操作するときは

- 走行中やドアが閉じているときは、ターンチルトシートを操作しない
- 不整地や傾斜地で操作しない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトポジションを P にする

■ ターンチルトシートをもとの位置にもどしたあとは

ターンチルトシートを前後左右にゆすり、シートが確実に格納位置で固定されているか確認してください。

リヤシート

背もたれを倒す・もどす

背もたれをもとにもどす

▲ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

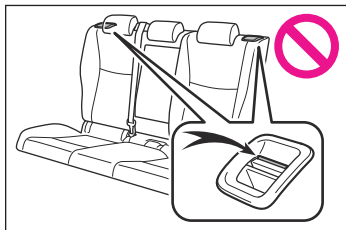
■ リヤシートを操作するときは

- 走行中にリヤシートを操作しない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトポジションを P にする
- 操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意する
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

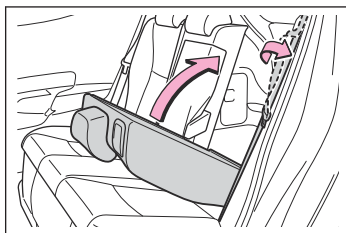
■ 背もたれをもとにもどしたあとは

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する

シートが確実に固定されていないときは、レバーに赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。



- シートベルトを挟み込まないように背もたれをもとにもどしてください。
シートベルトが背もたれ固定フックに挟まり、シートベルトを損傷させるおそれがあります。



ヘッドレスト

▲ 警告

■ ヘッドレストについて

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

ハンドル

調整のしかた

▲ 警告

■ 走行中の留意事項

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然変わり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

インナーミラー

上下調整のしかた

▲ 警告

■ 走行中の留意事項

走行中はミラーの調整をしないでください。運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

▲ 警告

■ 走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

調整するには

▲ 警告

■ ミラーヒーターが作動しているとき

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

ドアミラーを格納・復帰するには

▲ 警告

■ ミラーが動いているとき

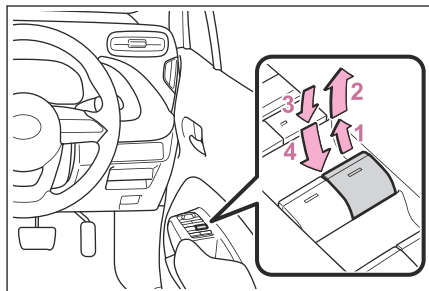
手をふれないでください。手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

パワーウィンドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。



1 閉める

- 2 自動全開^{*1}
- 3 開ける
- 4 自動全開^{*1}

□ 知識

■ 作動条件

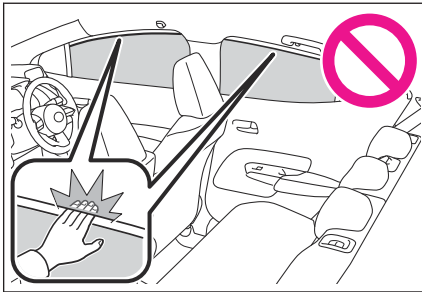
パワースイッチが ON のとき

▲ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。^{*2}
- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- 車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

^{*1}: 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

^{*2}: WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

⚠ 警告

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

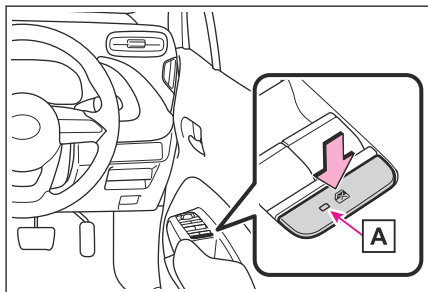
■ 巻き込み防止機能

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などを巻き込まないように注意してください。

誤操作を防止するには（ウィンドウロックスイッチ）

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

スイッチを押すと、インジケーター **A** が点灯し、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。



□ 知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

運転

運転にあたって

上り坂で発進する

▲ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 発進するとき

READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■ 運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
 - アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
 - 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
 - ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。
- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。
- 通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、*1を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードをおとしてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。*1
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

*1: WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

▲ 警告

- 4WD 車: オフロード走行をしないでください。本格的なオフロード走行を目的とした 4WD 車ではありません。やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。

■ すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■ シフトポジションを変更するとき

- 前進側のシフトポジションのまま惰性で後退したり、R のまま惰性で前進することは絶対にやめてください。思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、P ポジションスイッチを押さないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトポジションを R にしないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトポジションを前進側のシフトポジションにしないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトポジションを N にすると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、回生ブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだままシフト操作をしないでください。シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。シフトポジションの変更後は、メーター内のシフトポジション表示灯で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ 停車するとき

- 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

▲ 警告

- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火したりする
 - ・ プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・ 炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートしたりする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしたりすると、荷物を押し込んだりシートを動かしたりしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストールメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウィンドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にし、ハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。パーキングブレーキをかけずにシフトポジションを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は排気管にふれないでください。やけどをするおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずハイブリッドシステムを停止してください。READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

▲ 警告

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付かないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- ブレーキシステムは2つ以上の独立したシステムで構成されており、1つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ 万一脱輪したとき

駆動輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

荷物を積むときの注意

▲ 警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ パッケージトレイ
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。

▲ 警告

- 後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤや駆動系部品に負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パワー（イグニッション）スイッチ**ハイブリッドシステムを始動するには****▲ 警告****■ ハイブリッドシステムを始動するとき**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ハイブリッドシステムを停止するには**▲ 警告****■ 緊急時のハイブリッドシステム停止方法**

- 走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押してください。^{*1}ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
- 走行中にパワースイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。
- 走行中にハイブリッドシステムの緊急停止したあと、走行中にハイブリッドシステムを再始動させる場合は、シフトポジションをNにし、パワースイッチを短く確実に押してください。

^{*1}: WEB掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

EV ドライブモード

EV ドライブモードの切りかえ

▲ 警告

■ 走行中の警告

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。

シフトポジションを切りかえる

シフトポジションの使用目的について

▲ 警告

■ すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

シフトポジションの切りかえ方法と表示について

▲ 警告

■ シフトレバーについて

- シフトレバーのノブを取りはずしたり、純正品以外のノブを取り付けたりしないでください。また、ものをぶら下げたりしないでください。シフトレバーが定位置にもどらなくなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外はシフトレバーにふれないでください。

■ P ポジションスイッチについて

- 車が動いているときは、P ポジションスイッチにふれないでください。停車直前など、極低速走行中に P ポジションスイッチを押すと、シフトポジションが P に切りかわることがあるため、車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外は P ポジションスイッチにふれないでください。

パーキングブレーキ

操作のしかた

▲ 警告

■ 駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パーキングブレーキ自動作動機能について

パーキングブレーキ自動作動機能を日常のパーキングブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本機能は運転者のパーキングブレーキかけ忘れによって起こる事故を軽減するための機能です。機能に頼ったり、安全を委ねて駐車をしたりすると、重大な傷害に及ぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ブレーキホールド

システムを作動させるには

▲ 警告

■ 次のようなときは、ブレーキホールドシステムを OFF にしてください。

- 急坂路
- すべりやすい路面
- 自動洗車機を使用するとき
- けん引されるとき

AHB（オートマチックハイビーム）

▲ 警告

■ 安全にお使いいただくために

オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■ オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

- システムを OFF にする必要があるとき：^{*1}

^{*1}: WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

ワイパー＆ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

▲ 警告

■ ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

▲ 警告

■ 給油するとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けしないでください。静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。
- 気化した燃料を吸わないようにしてください。燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 継ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

給油口の閉め方

▲ 警告

■ キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ソフトウェアアップデートを確認する

▲ 警告

■ 安全にお使いいただくために

Toyota Safety Sense は、ソフトウェアを更新することで各機能の取り扱い方法が変わることがあります。正しい取り扱い方法を知らずにシステムを使用すると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- トヨタ公式 Web サイトにある、システムのソフトウェアバージョンに合ったデジタル取扱説明書をお読みいただいた上でご使用ください。

Toyota Safety Sense

▲ 警告

■ Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ 安全にお使いいただくために

- システムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。本システムはあらゆる状況で動作するものではなく、支援には限界があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お客様ご自身で作動テストを行わないでください。対象や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。ディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。
- 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、システムの作動を感じにくい場合があります。

■ システムを OFF にする必要があるとき

次のときは、システムを OFF にしてください。

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過積載やパンクで車両が傾いているとき
- 過度な高速走行をしているとき
- けん引時
- トラック／船舶／列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき

▲ 警告

- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- 洗車機を使用するとき
- センサーやセンサー周辺への衝撃などによりセンサーの向きがずれているとき、変形しているとき
- センサーやライトをさえぎるような装備品を装着しているとき
- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき、タイヤパンク応急修理キットで修理したとき
- タイヤの残り溝が十分でないとき、または空気圧が不足しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 事故や故障などにより走行不安定なとき

Toyota Safety Sense で使用するセンサー**▲ 警告****■ レーダーの故障や誤作動を防ぐために**

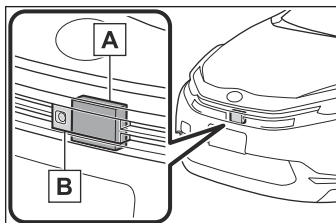
次のことをお守りください。

お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布で汚れをふき取ってください。



A レーダー

B レーダー専用カバー

- レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない
- レーダー周辺への衝撃を避ける

レーダー／フロントグリル／フロントバンパーに衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

▲ 警告

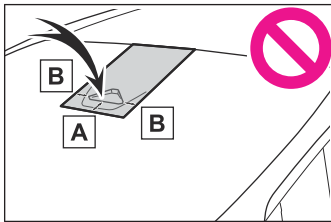
- レーダーを分解しない
- レーダーやレーダー専用カバーを改造、塗装したりしない。純正部品以外に交換しない。
- 次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
 - ・ レーダーを脱着や交換したとき
 - ・ フロントバンパー／フロントグリルを交換したとき

■ 前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく
 - ・ フロントウインドウガラス外側に汚れ／油膜／水滴／雪などが付着した場合は、取り除いてください。
 - ・ フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用しているも、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
 - ・ フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



A 約 4cm

B 約 4cm

- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する
- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する

フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない
- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

■ フロントウインドウガラスの前方カメラ取り付け部について

フロントウインドウガラスが曇る可能性があるときシステムが判断した場合、ヒーターにより前方カメラ周辺のフロントウインドウガラスの曇り取りが自動的に作動します。お手入れなどで前方カメラ周辺にふれるときは、十分にフロントガラスが冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

□ 知識**■ レーダーの取り扱い**

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

JP 01

PCS（プリクラッシュセーフティ）**⚠ 警告****■ 安全にお使いいただくために**

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するもので

▲ 警告

はありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ブリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

- 安全にお使いいただくために：^{*1}

■ ブリクラッシュセーフティを OFF にするとき

- システムを OFF にする必要があるとき：^{*1}

機能一覧**▲ 警告****■ ブリクラッシュブレーキについて**

- ブリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- ブリクラッシュブレーキは停止状態を保持する機能ではありません。ブリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、必要に応じて速やかに運転者自らブレーキをかけてください。
- ブリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、運転者の回避操作とシステムが判断し、ブリクラッシュブレーキが作動しない、または作動が解除される場合があります。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、ブリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■ 低速時加速抑制について

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない、または作動が解除される場合があります。

■ 緊急時操舵支援について

- 緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。
- 緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。
 - 運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたり、方向指示レバーを操作すると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。
 - 緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

^{*1}: WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

▲ 警告

- 緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

LTA（レーントレーシングアシスト）

LTA の機能

▲ 警告

■ LTA をお使いになる前に

- LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- LTA を使用しないときは、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。

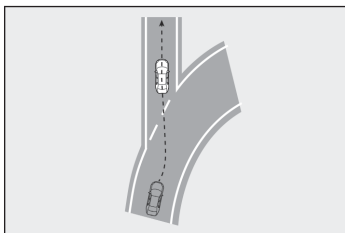
システムの ON/OFF を変更する

▲ 警告

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

- 先行車／周辺車が車線変更したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）



- 先行車／周辺車がふらついたとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 先行車／周辺車が車線から逸脱したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）
- 先行車／周辺車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）

▲ 警告

- 周囲に移動物、構造物があるとき（移動物、構造物と自車の位置によっては自車がふらついて走行するおそれがあります）
- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：^{*1}
- 車線を検知できないおそれがあるとき：^{*1}
- システムを OFF にする必要があるとき：^{*1}

LDA（レーンディパーチャーアラート）**基本機能****▲ 警告****■ LDA をお使いになる前に**

- LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

LDA の設定を変更する**▲ 警告****■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況**

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

- アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造物が不明瞭または直線的でないとき
- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線を検知できないおそれがあるとき：^{*1}
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：^{*1}
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：^{*1}
- システムを OFF にする必要があるとき：^{*1}

^{*1}: WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

▲ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。

- プロアクティブドライビングアシストは日常のブレーキ操作、ステアリング操作の一部を支援し、作動対象に近づきすぎないように支援することを目的としていますが、支援の範囲には限りがあります。

必要に応じて運転者自らブレーキやステアリング操作を行ってください。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。^{*1}

- プロアクティブドライビングアシストは前方への注意を軽減する装置ではありません。システムが正常に機能していても運転者が認識している周囲の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。注意義務は運転者にあり、危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながる恐れがあります。
- わき見運転やぼんやり運転などを許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ プロアクティブドライビングアシストを OFF にするとき

- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：^{*1}
- システムを OFF にする必要があるとき：^{*1}

システムが作動する状況と対象

▲ 警告

■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 車線を検知できないおそれがあるとき：^{*1}
- 作動対象などが自転車進路内に入る手前で停止したとき
- ガードレールや柵などの奥にいる作動対象のすぐそばを通過するとき
- 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
- 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき
- 物体（ガードレール・電柱・木・壁、柵、ポール、工事用コーン、ポストなど）が周囲に存在するとき
- 自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
- 道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識・看板など）がある場所を走行するとき
- 雪道、轍のある道路や凍結路を走行するとき
- 自車に向かって作動対象が近づいてくるとき

^{*1}: WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

▲ 警告

- 自転車や作動対象がふらついているとき
- 作動対象の動きが変化したとき（方向転換、急加速、急減速など）
- 作動対象に急接近したとき
- 先行車・自動二輪車が自転車の中心軸からずれているとき
- 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
- 作動対象が複数重なっているとき
- 作動対象が太陽光や他車両からのヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
- 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- 横向き、斜め、または自転車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- 駐車車両が横向き、斜め向きのとき
- 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
- 歩行者・自転車運転者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- 歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
- 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、および周囲が暗い（夜間やトンネル内など）ため、作動対象が周囲に溶け込んでいるとき
- 車線幅が約 4m 以上あるとき
- 車線幅が約 2.5m 以下のとき
- ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- 右左折中および右左折後の数秒間
- 進路変更中および進路変更後の数秒間
- 作動対象がカーブ進入前、カーブ走行中およびカーブを曲がり切ったからの数秒間に存在するとき
- 信号機の灯色が黄色のとき
- 信号機が一灯式や二灯式のとき

RSA（ロードサインアシスト）

▲ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- RSA は、道路標識などの情報を知らせることで運転の支援を行います。支援の範囲には限りがあります。運転者は常に道路標識などに従い、ご自身で適切な運転操作をしてください。

■ RSA を使用してはいけない状況

- システムを OFF にする必要があるとき：^{*1}
- 機能が正常に作動しないおそれのある状況
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：^{*1}

レーダークルーズコントロール

▲ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

システムが正しく作動しないおそれのある状況：^{*1}

- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。
- システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

^{*1}: WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

▲ 警告

走行中に限らず、運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

● 運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

● 運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■ レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：^{*1}
- システムを OFF にする必要があるとき：^{*1}

クルーズコントロール

▲ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

■ クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。

- システムを OFF にする必要があるとき：^{*1}

^{*1}: WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

ドライバー異常時対応システム

▲ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。ドライバー異常時対応システムは、運転者が急病などにより運転の継続が困難になった場合を対象とするシステムであり、居眠り運転や注意散漫な運転、体調が悪い場合の運転を対象とするものではありません。
- ドライバー異常時対応システムは、システムが運転者による運転の継続が困難と判断した場合に、自車線内で減速、停車を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としています。その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。また、作動には条件があり、作動条件を満たさない場合は作動しません。
- システム作動後、異常から復帰できた場合には、速やかに運転を再開するか、路肩へ避難し、三角表示板および発炎筒を設置して後続車両に停車していることをお知らせください。
- システム作動後、同乗者は運転者への救護措置をはじめとした必要な危険防止措置をとり、路側帯やガードレールの外側などの安全な場所にすみやかに退避してください。
- 本システムは運転者の異常をハンドルの操作状態などで判断しています。正常な運転者が意図的に無操作を続けた場合には、システムが作動することがあります。また、運転者が異常状態であっても、ハンドルにもたれかかるなどシステムが手放し運転と判断できない場合は、システムが作動しないことがあります。

停車保持フェーズ

▲ 警告

■ ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続は、T-Connect 通信エリア内、かつ T-Connect 契約がされている場合にのみ行われます。T-Connect 通信エリア外や T-Connect 未契約、T-Connect 契約が未更新の場合は接続が行われず、警察・救急への通報が行われません。あらかじめ通信エリアとご自身の T-Connect 契約をご確認の上、システムをご利用ください。

BSM（ブラインドスポットモニター）★

▲ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、シ

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▲ 警告

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

システムの構成部品**□ 知識****■ 後側方レーダーセンサーの取り扱いについて**

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので消さないでください。

製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。



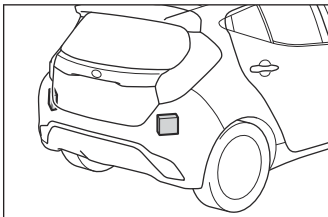
C3-000-1

▲ 警告**■ システムを正しく作動させるために**

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく

センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示とともにシステムが作動なくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM 機能の作動条件^{*1}でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。



- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない
- センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避けるセンサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。

^{*1}: WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

▲ 警告

- センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
- センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている
- センサーを分解しない
- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない
- センサーやリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- リヤバンパーの塗装修理の際にはトヨタ設定色以外への変更は行わないでください

クリアランスソナー

クリアランスソナーの ON/OFF を切りかえるには

▲ 警告

■ 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- センサーに傷を付けたりせず、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けしないでください。
- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- 改造・分解・塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けしないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- 純正品以外のサスペンションを取り付けしないでください。

■ 洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近づけすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

巻き込み警報機能（アドバンストパーク装着車）

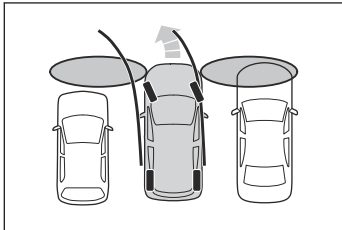
▲ 警告

■ サイドセンサーについて

次のとき、クリアランスセンサーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。注意して運転してください。

- パワースイッチを ON にした直後の発進時、フロントサイドセンサーで検知できないような小さい車両や静止物が隣にあるとき

下図の場合、前進しても左側にある車両を検知できないため、巻き込み防止警報機能は作動しません。



- サイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置に静止物がある場合や、人がいるとき
- サイドエリアのスキャン完了後に、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに侵入してきたとき
- ドアミラーが閉じられているとき
- 補機バッテリーを脱着したときやあがったときはドアミラーの開閉を実施してください。

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★

▲ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。RCTA 機能は自車の右後方または左後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。RCTA 機能を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ システムを正しく作動させるために

*1

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

*1：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

RCD（リヤカメラディテクション）

▲ 警告

■ 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。

システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ システムを正しく作動させるために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- カメラに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- カメラ付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート、フォグランプ等）を取り付けしないでください。
- カメラ周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。
- カメラを分解・改造・塗装しないでください。
- カメラにアクセサリ・ステッカーを付けしないでください。
- リアバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリム等）を取り付けしないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- バックドアを完全に閉めてください。

■ RCD の機能を OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。RCD 機能が正常に作動しないことがあり思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 上記の内容が守られないとき
- 純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

PKSB（パーキングサポートブレーキ）

駐車支援機能

▲ 警告

■ 安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和

▲ 警告

し、衝突被害低減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。

- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約2秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。
- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にするとき

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用するとき
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を使用するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

■ サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが作動対象物を正しく検知できなくなり、システムが正しく作動しなくなるおそれがあり危険です。サスペンションの改造はしないでください。

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物/周囲静止物★）

センサーの種類

▲ 警告

- システムを正しく作動させるために

*1

- 万一、踏切内などで PKSB（パーキングサポートブレーキ）が誤って作動したときは

*1

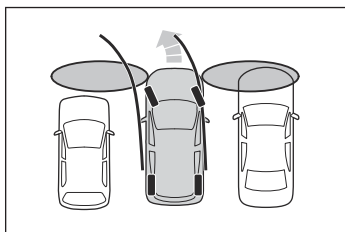
- 洗車時の注意

*1

- サイドセンサーまたはサイドカメラについて（アドバンストパーク装着車）

次のとき、パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）が正常に作動しないことがあります。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- パワースイッチを ON にした直後の発進時、フロントサイドセンサーで検知できないような小さい車両や静止物が隣にあるとき。下図の場合、前進しても左側にある車両を検知できないため、パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）は作動しません。



- サイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置に静止物がある場合や、人がいるとき
- サイドエリアのスキャン完了後に、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに侵入してきたとき
- ドアミラーが閉じられているとき
- 補機バッテリーを脱着したときやあがったときはドアミラーの格納・復帰を実施してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

*1: WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★

センサーの種類

▲ 警告

- システムを正しく作動させるために

*1

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）★

後方歩行者の画面表示

▲ 警告

- 万一、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）が誤って作動したときはパーキングサポートブレーキ（後方歩行者）作動後はすぐにブレーキを踏んでください。（ブレーキを踏むとシステムは解除されます。）
- パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を正しくお使いいただくために

*1

トヨタチームメイト アドバンストパーク★

機能一覧

▲ 警告

- 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能／制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

- 一般の車と同様、必ず車両周辺の安全を直接確認しながら慎重に前進または後退してください。
- システムを使用するときは、必ず車両周辺の安全を直接確認してください。必要であれば、減速、停車のためにブレーキを踏んでください。
- 駐車するときは、必ず目標駐車位置に車を駐車できるかを確認してから操作を行ってください。
- 駐車時の路面や自車の状況、駐車スペースまでの距離などにより、駐車スペースを認識できなかったり、最後までアシストできないことがあります。
- 本システムは適切な経路で切り返し位置の案内を出しますが、隣接車両への接近など、運転者が不安に感じた場合は、任意のタイミングでブレーキを踏んでからシフトポジションを切りかえてください。ただし、切り返し回数が多くなったり、駐車精度が悪化することがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

*1: WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

▲ 警告

- 次のようなもの／場合は検知できないことがあるため、周辺の安全を直接確認し、接触のおそれがある場合はブレーキを踏んで停車してください。
 - ・ 細いもの（針金／フェンス／ロープ／ポールなど）や接近する角度によって細く見えるもの（看板／自転車など）
 - ・ 音波を吸収しやすいもの（綿／雪など）
 - ・ 鋭角的な形のもの（ブロック塀や柱、壁の角など）
 - ・ 背の低いもの（縁石やブロック、地上ロッカーなど）
 - ・ 背が高く上部が張り出しているもの（梁など）
 - ・ 地面に対し垂直でないもの
 - ・ 障害物に対して斜めに接近するとき
- 駐車スペース内に障害物が存在しても、検出できずにアシストすることがあります。
- 周辺の車両や障害物、人などに接触しそうなときや、車止めを乗り越えそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを中止してください。
- マルチメディア画面だけを見ながら走行することは絶対にしないでください。画面に映っている映像と実際の状況は異なることがあり、画面だけを見て走行すると車をぶついたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。走行するときは、必ず目視やミラーなどで周辺の安全を直接確認してください。
- 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。とくに動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。
- 次のとき、アドバンストパークによる停車保持が解除され、車両が動き出すおそれがあります。思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちにブレーキペダルを踏んでください。
 - ・ 作動中に運転席のドアが開けられたとき
 - ・ 作動中に一定時間システムの指示に従わなかったとき
 - ・ 作動中に一定時間ブレーキペダルを踏んで停車しているとき
 - ・ 作動中に故障が発生したとき
- 使用中はハンドルが回転するため、次の点に注意してください。
 - ・ ネクタイ／スカーフ／腕などを巻き込むおそれがあります。上体をハンドルに近づけないでください。また、お子さまがハンドルに近づかないよう注意してください。
 - ・ 爪が長いとハンドルが回転する際にけがをするおそれがあります。
 - ・ 万一のときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを中止してください。
- 使用中は窓から手を出さないでください。

▲ 警告**■ アドバンストパークを正しく作動させるために**

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 次のような状況では使用しないでください。
 - ・ 駐車場以外の場所
 - ・ 砂地／砂利地のような駐車スペースのない整備されていない駐車場
 - ・ 傾斜／段差／穴／側溝のある平坦でない駐車場
 - ・ 機械式駐車場
 - ・ 車両下部に接触して固定する装置がある駐車場
 - ・ 凍結したり、すべりやすい路面、または雪道
 - ・ 真夏の炎天下でアスファルトがとけているようなとき
 - ・ 車両周辺に障害物があるとき
 - ・ 目標駐車位置（青色の枠の中）や自転車と目標駐車位置とのあいだに障害物があるとき
 - ・ 人や車両などの通行量が多いとき
 - ・ 駐車スペースの確保が困難な場所（車両が入らないほど狭いなど）
 - ・ カメラのレンズの汚れ／西日／影／雪などで画面が見にくいとき
 - ・ タイヤチェーン／応急用タイヤを使用しているとき
 - ・ ドアまたはバックドアが完全に閉まっていないとき
 - ・ 窓から手を出しているとき
 - ・ 降雪や豪雨のとき
- メーカー出荷時装着タイヤ以外のタイヤは使用しないでください。アドバンストパークが正常に作動しないおそれがあります。また、タイヤを交換すると、画面に表示される線や枠の表示位置に誤差が生じることがあります。タイヤを交換するときはトヨタ販売店にご相談ください。
- 次のような状況では、設定した位置にアシストできなかつたり、システムが正常に作動しない場合があります。
 - ・ タイヤが極端に摩耗していたり、空気圧が低いとき
 - ・ 極端に重いものを積んでいるとき
 - ・ 車両の片側にだけ荷物などを積んで車両が傾いているとき
 - ・ 駐車場にロードヒーター（路面凍結防止用のヒーター）が設置されているとき
 - ・ タイヤを縁石などに強く当てて、ホイールアライメントが正常でないとき
 - ・ アシスト中に歩行者や通行車両を検知したとき
 - ・ けん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

▲ 警告

- 区画線と認識してしまうようなもの（光／建物の映り込み／段差／側溝／路面ペイント／引き直し線など）があるとき

上記以外で設定位置と車両の位置が大きくずれる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

アドバンストパーク装着車で使用するカメラとセンサーの種類

▲ 警告

■ カメラとセンサーの取り扱いについて

- カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。
- センサーが正常に作動なくなり、思わぬ事故につながるおそれがありますので、クリアランスソナー使用時の注意を参照してください。^{*1}
- 次のとき、センサーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。
 - 目標駐車位置の隣に駐車車両があるにもかかわらず、駐車枠が目標駐車位置から大きくずれた位置に表示されるときは、センサーの角度がずれているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
 - センサーが検知する範囲には、アクセサリ用品などを取り付けないでください。

安心降車アシスト★

▲ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- 安心降車アシストは、停車中に接近してくる車両や自転車の存在を乗員に提供する補助的なシステムです。本システムだけで安全を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、乗員は自らの目視やミラーなどによる安全確認を行う必要があります。

^{*1}: WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

安心降車アシストのシステム構成部品

▲ 警告

- システムを正しく作動させるために

*1

運転を補助する装置

運転を補助する装置について

▲ 警告

- ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロブレーニング現象が発生したとき

- ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えるにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

- TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

- アクティブコーナリングアシストの効果を発揮できないとき

- アクティブコーナリングアシストを過信しないでください。下り坂での加速中やすべりやすい路面などでは、アクティブコーナリングアシストが効かないことがあります。
- アクティブコーナリングアシストが頻繁に作動したときは、ブレーキ・TRC・VSC を正常に機能させるために、アクティブコーナリングアシストが一時的に作動しないことがあります。

- ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

*1: WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

▲ 警告

- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・ABS・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。^{*1} 異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■ セカンダリーコリジョンブレーキについて

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ スムーズストップについて

- 本システムは、ブレーキペダルの操作に不慣れな方や、乗員の快適性を意識した運転が難しい方向けの補助機能です。普段からなめらかに停車できる方の操作性が向上する機能ではありません。
- 本システムは“なめらかに止まる”機能ではなく、“ブレーキペダル操作時の乗員の快適性向上をサポート”する機能です。ブレーキペダルから足を離すとブレーキ力は維持されません。
- 本システムは、ブレーキペダルの踏み方・車両状態によって効果が変わります。また、凹凸のある路面などの悪路や急勾配の坂を走行する際は十分な効果を発揮できない場合がありますので、ブレーキペダルの操作で慎重に運転してください。
- 本システムは、ブレーキペダルの操作に応じたブレーキ力が発生するように設計されていますが、総ブレーキ力を変えない範囲で減速度が変化する場合があります。
- 本システムは、タイヤやブレーキの限界性能を高める機能ではありません。速度・車間距離などに十分注意し、安全運転を心がけてください。

*1: WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

▲ 警告**■ 衝突時の急加速抑制**

- 衝突時の急加速抑制を過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件により異なります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 本システムは急加速を抑制するものであり、ブレーキを作動させるものではありません。必要に応じてブレーキペダルを操作してください。

プラスサポート（販売店装着オプション）**プラスサポートを使用するには****プラスサポートが不要なときは****▲ 警告****■ プラスサポートを正しく使用するために**

- 必ずサポキーを携帯していることを確認してください。標準装備の電子キーを携帯しているときは、プラスサポートが始動しません。
- サポキーと標準装備の電子キーを同時に携帯しないでください。プラスサポートが始動しない場合があります。
- ハイブリッドシステムの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。

急アクセル時加速抑制について**▲ 警告****■ 安全にお使いいただくために**

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。急アクセル時加速抑制は、状況によっては作動しない場合もあります。
- 急アクセル時加速抑制は衝突を防止するシステムではありません。車両を自動で停止させる機能はないため、加速抑制後も車両は慣性で動きます。周囲の交通状況を確認の上、必ずご自身でブレーキペダルを踏んでください。
- 急アクセル時加速抑制は意図せぬ急加速の防止を補助する機能ですが、走行状況によっては、加速が必要なときにもハイブリッドシステムの出力が抑制される場合があります。安全、かつ環境に優しい運転をするためにも、日頃からアクセルペダルはゆっくり操作するように心がけてください。

▲ 警告

- お客様ご自身で急アクセル時加速抑制の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動すると、ハイブリッドシステムの出力を抑制します。すみやかにアクセルペダルから足を離して、ブレーキペダルを踏んでください。アクセルペダルを踏み込んだままですと、しばらくしたあとに車両が加速し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 右左折・車線変更するとき

必ず方向指示灯を点滅させてください。方向指示灯が点滅していないと、急アクセル時加速抑制によりハイブリッドシステムの出力が抑制され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

専用パワーステアリング★

▲ 警告

■ ステアリング操作について

標準車にくらべて大幅にステアリングの操作力が軽くなっていますので、初めてこの車両を運転されるときは、特にご注意ください。

寒冷時の運転

冬を迎える前の準備について

▲ 警告

■ 冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず4輪とも装着する

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前2輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▲ 警告

- 取り付け後約 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

■ タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、安全に車を運転することができず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LTA（レーントレーシングアシスト）を使用しない

室内装備・機能

オートエアコン

エアコン操作スイッチについて

▲ 警告

■ フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■ リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒーター作動中の警告

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■ ナノイーX発生装置★について

高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントワイパーデアイサー★

▲ 警告

■ フロントワイパーデアイサー作動中の警告

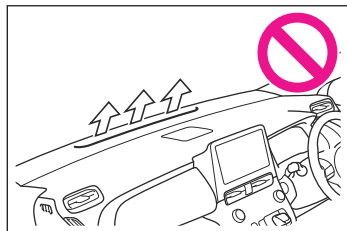
フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

吹き出し口の配置・操作

▲ 警告

■ フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために

フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなる場合があります。



★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ステアリングヒーター★／シートヒーター★

▲ 警告

■ 低温やけどについて

次の方がステアリングヒーター／シートヒーターにふれないようにご注意ください。

- 乳幼児、お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方

操作スイッチについて

▲ 警告

■ 異常加熱や低温やけどを防ぐために

シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

- 長時間連続使用しないでください。
- 毛布・クッションなどを使用しないでください。

室内装備一覧

収納装備の位置

▲ 警告

■ 走行中の警告

- グローブボックス、コンソールボックスやアップパーボックスのふたを必ず 閉じてください。急ブレーキや急旋回時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- オープントレイにもものを置くときは、次の注意事項を守ってください。急ブレーキや急ハンドル時などに収納していたものが飛び出し、ペダル操作のさまたげとなるおそれがあるほか、運転者の注意力がにぶり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ・ 転がりやすいものや凹面より高さがあるものを置かないでください。
 - ・ トレイの端よりも高くものを積み重ねないでください。
 - ・ トレイの端からはみ出してものを置かないでください。

■ 収納してはいけないもの

- カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▲ 警告

- ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

■ 収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。

放置したままですと、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

■ アシストグリップについて

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

■ コートフックへかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

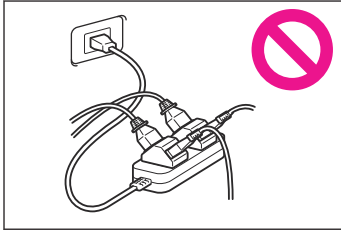
アクセサリコンセント (AC100V 1500W) ・非常時給電システム**電気製品の電源プラグを接続するには****車外にコードを引いて使用する時****▲ 警告****■ 安全にお使いいただくために**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 非常時給電システムの使用中は、お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。エアコンを使用していても、システムの自動停止等により室内が高温、または低温になる場合があります。熱中症・脱水症状・低体温症になるおそれがあります。
- お子さまなど、不慣れな方だけで給電作業を行わないでください。
- めれた手で電気製品の電源プラグを抜き挿ししたり、ピンなどをコンセントに挿ししたりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。
- コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。修理についてはトヨタ販売店にご相談ください。
- コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。

▲ 警告

- コンセントへは電源プラグ本体を持って抜き差しをし、プラグの刃にふれないようにしてください。コードを引っ張って電源プラグを抜くと、電源プラグやコードが損傷するおそれがあります。
- コードやコンセントに異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。また、コードやコンセントの発熱を防ぐために、次のことをお守りください。
 - ・ コンセントに、分岐用コンセントを複数接続しない



- ・ コードリールを使用する場合、コードはリールからすべて引き出す
- アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子付きのコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。また、接地極付プラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。
- 電気製品の電源プラグをコンセントに挿し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。
- **アクセサリコンセント、非常時給電システムがおよぼす影響について**

ペースメーカー（植込み型心臓ペースメーカー／植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ）装着のお客様は、給電の操作はご自身ではなさらず、ほかの方をお願いしてください。

- 給電中は車内にとどまらないでください。
給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- ものを取るときなどに、ラゲージルームなど含めた車内に入り込まないでください。
給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

■ **接続する電気製品について**

- 使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。
- 電源プラグや、電気製品が故障しているときは使用しないでください。
- 特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。
- 水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。
- 走行中の振動により、電気製品が故障する可能性があります。
- 防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。

▲ 警告

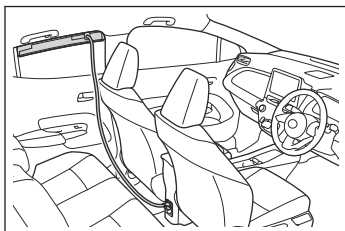
- 水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください。
- 車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあります。

■ 電源周波数について

- 工場出荷時、車両側の電源周波数は、50Hzに設定されています。コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50/60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 特に電子レンジは使用中に発熱するおそれがあるため、必ずコンセントと電源周波数が合っていることを確認してください。

■ 駐車中または停車中に使用するとき

- コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものです。家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時の給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に接続する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。
- コンセントの使用中はパーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションをPから切りかえないでください。車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあります。
- コンセントの使用中は車両から離れないでください。
- 落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。給電中、雷に気付いたときは給電を停止してください。
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。
- 暖房器具などの電気製品を使用して車中に泊まる際は、十分注意してください。給電システムの自動停止などにより、電気製品が意図せず停止するおそれがあります。
- 傾いた場所や坂道などに停めて使用しないでください。使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。
- 車外にコードを引いて使用する場合は、次のことに注意してください。
 - 雨水の侵入などに注意するコンセントに雨水が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。
 - コードを窓やドアで挟まない
 - たるみをもたせ、異常な張りが発生しないようにする



▲ 警告

- 誤って車両を発進させない
- 給油や洗車は行わないでください。
- ボンネットが閉まっていることを確認してください。
- 状況によってはエンジンが自動で始動するため排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。
- エンジンルーム内に顔や手を近付けないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。
- 燃えやすいものの近くに停めて使用しないでください。過熱した排気管で発火するおそれがあります。
- 腐食性のガスまたは溶液の発散する場所では使用しないでください。
- 駆動用電池の残量減少により、自動的にガソリンエンジンが作動します。車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満、滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。設置できない場合は使用しないでください。

■ 走行中に使用するとき

- 走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。
 - わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVD など）
 - 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定が不完全で転倒のおそれがある場合
 - 落下による事故や、発熱により火災が発生するおそれがある場合
 - やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーメーカーなど）
 - ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・AC アダプター・マウスなど）
- 窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなどのおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。

お手入れのしかた

外装の手入れ

手入れの作業要領

▲ 警告

■ 洗車をするとき

エンジンルーム内に水をかけないでください。電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ 排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ リヤバンパー・フロントバンパーについて

- リヤバンパーまたはフロントバンパーの塗装に傷がつくと、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

- ・ BSM★
- ・ RCTA★
- ・ 安心降車アシスト★
- ・ PKSB
- ・ クリアランスソナー

内装の手入れ

室内の手入れをするには

□ 知識

■ シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

▲ 警告

■ 車両への水の浸入

- 床・ラゲージルーム内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。^{*1} 駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

^{*1}: WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

▲ 警告

- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。^{*1} 電気の不具合により、SRS エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ボンネット**ボンネットを開けるには****▲ 警告****■ 走行前の確認**

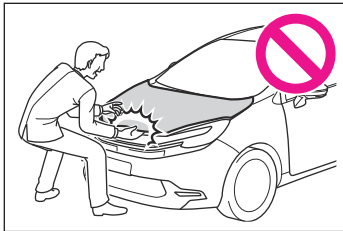
ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 修理・車検・整備点検をする場合は

整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ けがを防ぐために

走行後のボンネットステーは高温になっています。熱くなったボンネットステーにさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていることを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因にな

^{*1}: WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

▲ 警告

ったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットステーをステー穴に差し込んだあとは

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく差し込まれているか確認してください。

ウォッシャー液の補充

補充をするには

▲ 警告

■ ウォッシャー液を補充するとき

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかるとう火するおそれがあり危険です。

タイヤについて

タイヤの点検項目

▲ 警告

■ 点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
以前どのように使用されていたか不明なタイヤは使用しない

■ 異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする

▲ 警告

- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■ タイヤ交換時の注意

- 必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります
- ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。ナットを締めるときに必要な以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

■ 異常があるホイールの使用禁止（アルミホイール装着車）

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

タイヤの交換**▲ 警告****■ タイヤがパンクしたときは**

パンクしたまま走行しないでください。短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

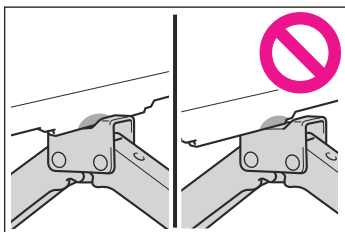
工具とジャッキの位置**▲ 警告****■ ジャッキの使用について**

次のことをお守りください。ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキはお客様の車専用のため他の車に使用しない
- 他の車のジャッキをお客様の車に使用しない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける^{*1}

^{*1}: WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

▲ 警告



- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

パンクしたタイヤの交換

▲ 警告

■ タイヤ交換について

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。ナットを取り付けるときに、オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
 - タイヤを交換したあとは、速やかに締め付けトルクを確認してください。締め付けトルク：103N・m（1050kgf・cm）
 - タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
 - ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける。

タイヤ空気圧について

▲ 警告

■ タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大（路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

駆動用電池冷却用吸入口の清掃

清掃のしかた

▲ 警告

■ 吸入口の清掃をするときは

- 水や液体などで清掃しないでください。駆動用電池などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 清掃前に必ずパワースイッチを OFF にしてハイブリッドシステムを停止してください。
- 吸入口の中に手や足などを入れないでください。冷却用ファンに巻き込まれたり高電圧部位にふれて感電するなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

電子キーの電池交換

電池を交換するには

▲ 警告

■ 電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。

▲ 警告

- 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか2時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせてないでください。
 - カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。
 - 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。
- 電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために
- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
 - 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
 - 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

ヒューズの点検・交換

ヒューズの点検・交換をするには

▲ 警告

■ 車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

電球（バルブ）の交換

電球交換のしかた

▲ 警告

■ 電球を交換するとき

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

⚠ 警告

- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、または内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

■ お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

万一の場合には

発炎筒

発炎筒を使うには

▲ 警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

車を停止するには

シフトポジションがNにならない場合

▲ 警告

■ 走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するとき

ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

▲ 警告

■ 走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

車中泊が必要なときは

▲ 警告

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

- 詳しい注意事項などを以下の URL で確認することができます。

https://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/tdrs/emergency



けん引について

レッカー車でけん引するとき

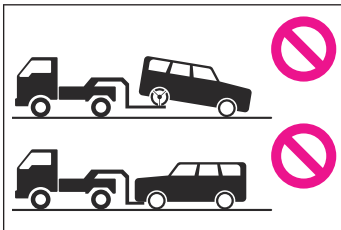
▲ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ レッカー車でけん引するとき

- FF 車

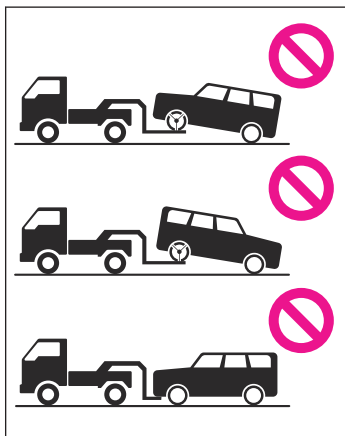
必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



- 4WD 車

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品の破損や、車が台車から飛び出したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。

⚠ 警告



他車にけん引してもらうとき

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- パーキングロックにより前輪が固定され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。次のことをしないでください。
 - ・ 運転席シートベルトを外し、運転席のドアを開ける
 - ・ パワースイッチを OFF にする

■ けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。指定の位置にしっかりと取り付けしていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

警告灯がついたときは

警告灯・警告ブザーへの対応

▲ 警告

■ ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

パンクしたときは

▲ 警告

■ パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

▲ 警告

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは指定の位置に収納してください。急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ パンク補修液について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

応急修理するときは

▲ 警告

■ タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■ パンクしたタイヤを応急修理するとき

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 空気充填中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。
- 空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- 応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40分以上連続で作動させないでください。
- 応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。
- 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■ 補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。
 - ・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。

▲ 警告

- 空気圧を確認してください。130kPa (1.3kg/cm²) 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

電子キーが正常に働かないときは**ドアの施錠・解錠****▲ 警告****■ メカニカルキーを使ってドアガラスを操作するとき**

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

補機バッテリーがあがったときは**ハイブリッドシステムを再始動するには****▲ 警告****■ 補機バッテリー端子をはずすときは**

必ず一端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがある他、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ 補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない

▲ 警告

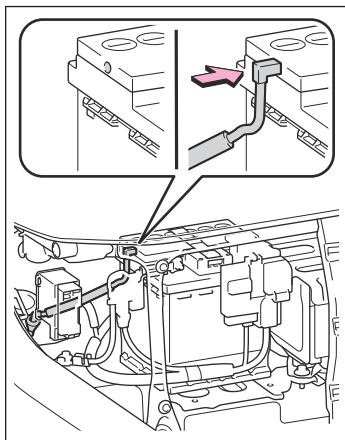
- 誤ってバッテリー液（酸）が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受けるまた、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液（酸）を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

■ 補機バッテリーあがりの処置をしたあと

早めにトヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■ 補機バッテリーを交換するときは

- 液栓やインジケーターがスターに近いと、補機バッテリー液（酸）がもれだすおそれがあります。
- 補機バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- 交換後は、交換した補機バッテリーの排気穴に排気ホースと排気穴栓を確実に取り付けてください。正しく取り付けられていないと、可燃性ガスが車内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。



■ 補機バッテリーのマイナス端子について

ボデーに接続された補機バッテリーのマイナス端子をはずさないでください。誤ってはずすとプラス端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

オーバーヒートしたときは

対処方法

マルチインフォメーションディスプレイに“ハイブリッドシステム 高温出力制限中です”が表示されたとき

▲ 警告

■ エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- ハイブリッドシステムの停止後は、READY インジケーターが消灯していることを確認してください。ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が噴き出すおそれがあります。

スタックしたときは

脱出するには

▲ 警告

■ 脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もいないことを確認してください。スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

助手席ターンチルトシート★が車外に出た状態で回転できないときは

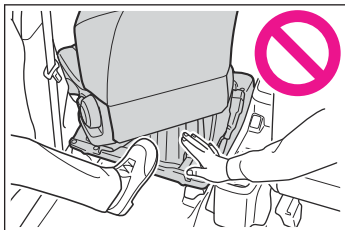
助手席ターンチルトシートを回転できるようにするには

▲ 警告

■ 安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 修理が完了するまでは助手席ターンチルトシートに座らないでください。
- 助手席ターンチルトシート格納スペースに手や足を入れないでください。シート可動部などで手や足などを挟むおそれがあります。



★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両情報

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪
185/65R15 88S	15 × 6J	230 (2.3)	220 (2.2)
195/55R16 87V	16 × 6J	220 (2.2)	200 (2.0)
205/45R17 84W	17 × 7J	220 (2.2)	200 (2.0)

ユーザーカスタマイズ機能

設定を変更するには

マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

▲ 警告

■ カスタマイズ設定を行うとき

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

はじめに

知っておいていただきたいこと

安全にお使いいただくため

▲ 警告

- 安全のため、運転中は運転者がシステムを操作しないでください。道路や交通への注意が不十分な場合、事故を引き起こす可能性があります。
- 運転中は、必ず交通規制を遵守し道路状況に注意してください。道路の交通標識が変更された場合、一方通行指示などの情報がルート案内に反映されない場合があります。

マルチメディアシステムの操作および設定

マルチメディアシステムの使用について

マルチメディアシステム使用上の留意事項

▲ 警告

- 安全のため、運転者は走行中に極力操作をせず、停車させてから操作をしてください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。なお、走行中に画面を見るときは、必要最小限の時間にしてください。
- 安全のため、運転者は運転中に接続した機器本体の操作をしないでください。
- 駐車支援システムを使用するときは、必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

▲ 警告

Bluetooth®通信用/Wi-Fi®通信用の車両側アンテナはマルチメディアシステムに内蔵されています。

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医師や医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートフォンや通信機器の接続

Bluetooth[®]機能の使い方

Bluetooth[®]機器使用上の留意事項

▲ 警告

- 携帯電話をハンズフリー電話で使用する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯電話本体を操作しないでください。
- 安全な場所に停車して電話をかけてください。運転中に電話がかかってきたときは、安全運転に留意し、通話は手短にしてください。

ナビゲーション

ナビゲーション設定

走行支援の設定

▲ 警告

走行支援設定の案内は、あくまでも補助機能です。案内を過信せず、常に道路標識／標示や道路状況に注意し、安全運転に心がけてください。

オーディオシステム

オーディオシステムの基本操作

USB 機器を接続する

▲ 警告

- 故障ややけどを防ぐために

次のことをお守りください。お守りいただかないと装置の故障や損傷、発熱によるやけどにつながるおそれがあります。

- 布などをかぶせて使用しないでください。
- 破損しているケーブルやデバイスを使用しないでください。
- 分解や改造、取りはずしをしないでください。
- 強い力や衝撃を加えないでください。

Miracast® の操作

Miracast® 対応機器を接続する

Miracast® 使用上の留意事項

▲ 警告

運転中はスマートフォンやタブレットを接続したり、操作をしないでください。

T-Connect

T-Connect のサービス概要

データ通信に関する留意事項

安全にご利用するため注意すること

▲ 警告

安全のため、運転者は走行中に極力操作（音声操作も含む）をしないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中に画面を見るときは、必要最小限の時間にしてください。

ヘルプネット（エアバッグ連動タイプ）

安全のために

▲ 警告

- 安全運転を心がけてください。ヘルプネットは、交通事故や急病時などの救援通報を補助するものであり、乗員保護の機能を持つものではありません。乗員保護のために、乗員はシートベルトを着用し、安全運転を心がけてください。
- 緊急事態が発生したときは、人命救助とけが人の対処を最優先にしてください。
- 緊急事態発生により燃料の匂いや異臭を感じるときは、車内にとどまらずにただちに安全な場所に避難してください。
- 手動保守点検は契約者本人が行い、ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯していることを必ず確認してください。
- マルチメディアシステムは衝撃などによって、作動しなくなることがあります。このようなときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。
- 補機バッテリーの電圧低下または接続が断たれたとき、ヘルプネットセンターと通信できないことがあります。
- 携帯電話サービスエリア内であっても電波状態または回線混雑のために、緊急通報や通話が困難になることがあります。この場合は、ヘルプネットセンターと回線接続しても、ヘルプネットセンターと通信できず、救援要請の通報および通話できません。緊急通報できないときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。
- 事故発生時、エアバッグが作動せず、車両へ強い衝撃が加わっていないときは自動通報されません。また、エアバッグが作動しても通報されないことがあります。このようなときにはボタン操作による手動通報をしてください。
- 以下のときは緊急通報できません。緊急通報できないときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。
 - ・ 携帯電話サービスエリア外で使用している

▲ 警告

- 関連機器（ヘルプネットスイッチパネル、ディスプレイ、マイク、スピーカー、通信モジュール、アンテナ、およびこれらを接続する電気配線など）に異常または損傷があり、故障している
- T-Connect 契約が未契約、または契約期限が切れている
- 手動保守点検を実施していないため、緊急通報可能状態になっていない
- 緊急通報時に、電波状態などの理由で回線接続ができないときは、緊急通報は終了せず電話接続できるまでヘルプネットセンターへの回線接続をくり返し行います。電波状態の良好な場所に移動するか、携帯電話/公衆電話などから直接通報してください。
- 緊急通報後に救援を待つ間は、後続車の追突などの二次災害を防ぐ手段をとり、乗員は安全な場所へ避難してください。基本的には車内にとどまらず、窓を開け、ヘルプネットセンターのオペレーターの声が聞こえる車外で、安全な場所を確保してください。
- 安全のため、走行中は緊急通報をしないでください。走行中の通報はハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。緊急通報は、停車して安全を確認してから行ってください。
- T-Connect 契約を解約してもヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯しているときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- ヒューズ交換は、必ず表示された規格のヒューズをご使用ください。規定以外のヒューズを使用すると、発煙、発火の原因となり、火災につながるおそれがあり危険です。
- 煙が出る、異臭がするなど異常な状態で使用すると、発火の原因になります。ただちに使用を中止してトヨタ販売店にご相談ください。

ヘルプネットをお使いになる前に**▲ 警告**

- 以下のように、関連機器が正常に動作しないとき、緊急時にヘルプネットセンターへ正しい情報が伝わらず、救援困難となる可能性があります。
 - 通信が始まらない。
 - 通報位置とヘルプネットセンターの位置表示が違う。
 - 通話できない。
- 手動保守点検後、ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯しないとき、緊急通報は動作しません。表示灯が正常に点灯しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。

緊急通報をする

エアバッグ作動による自動通報

▲ 警告

- 呼び返し待機状態のあいだは、後続車の追突などの二次災害を防ぐ手段をとり、乗員は安全な場所へ避難してください。基本的には車内にとどまらず、窓を開け、ヘルプネットセンターのオペレーターの声が聞こえる車外で、安全な場所を確保してください。
- 呼び返し待機中は、緊急通報に関係のない着信も自動的にハンズフリー通話でつながります。通話中は救援活動に関わる着信であっても、着信できません。

緊急通報できなかったときは、最寄りの公衆電話などから通報してください。

- 携帯電話サービスエリア外では緊急通報できません。緊急通報できなかったときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。
- 携帯電話サービスエリア内であっても、電波状態または回線混雑のために、緊急通報や通話することが困難になることがあります。このときは、ヘルプネットセンターと回線接続しても通信できず、救援要請の通報および通話できません。
- 緊急通報時に、電波状態などの理由で回線接続ができないときは、緊急通報は終了せず電話接続できるまでヘルプネットセンターへの回線接続をくり返し行います。電波状態の良い場所に移動するか、携帯電話/公衆電話などから直接通報してください。

ボタン操作による手動通報

▲ 警告

- 呼び返し待機状態のあいだは、後続車の追突などの二次災害を防ぐ手段をとり、乗員は安全な場所へ避難してください。基本的には車内にとどまらず、窓を開け、ヘルプネットセンターのオペレーターの声が聞こえる車外で、安全な場所を確保してください。
- 呼び返し待機中は、緊急通報に関係のない着信も自動的にハンズフリー通話でつながります。通話中は救援活動に関わる着信であっても、着信できません。
- 緊急通報できなかったときは、最寄りの公衆電話などから通報してください。
 - 携帯電話サービスエリア外では緊急通報できません。緊急通報できなかったときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。
 - 携帯電話サービスエリア内であっても、電波状態または回線混雑のために、緊急通報や通話することが困難になることがあります。このときは、ヘルプネットセンターと回線接続しても通信できず、救援要請の通報および通話できません。
 - 緊急通報時に、電波状態などの理由で回線接続ができないときは、緊急通報は終了せず電話接続できるまでヘルプネットセンターへの回線接続をくり返し行います。電波状態の良い場所に移動するか、携帯電話/公衆電話などから直接通報してください。

保守点検をする

手動保守点検を実施する

▲ 警告

手動保守点検を実施するときは、途中で中断せず、最後まで完了してください。手動保守点検が正常に終了しても緑の表示灯が点灯しない場合、緊急通報できない可能性があるため、トヨタ販売店にご相談ください。

表示灯について

▲ 警告

- 表示灯が以下のときには、ヘルプネットシステムに異常があることをお知らせしています。これらの異常表示がされたとき、システムが正常作動せず緊急通報できないことがあります。ただちにトヨタ販売店にご相談ください。
 - ハイブリッドシステム始動後にヘルプネットスイッチパネルの赤と緑の表示灯が約5秒間点灯したあと、赤の表示灯が点滅し続ける。
 - ハイブリッドシステム始動後、赤と緑の表示灯の点灯がいつまでも続く。
 - 携帯電話サービス圏内にもかかわらず赤の表示灯がいつまでも続く。
 - ハイブリッドシステム始動後に赤と緑の表示灯が点灯しない。
- 表示灯は、緊急通報可能または不可能状態を正しく表示しないことがあります。たとえば、解約時の処理をしていない中古車などに搭載された関連機器を使用するときは、サービスの契約を結んでいない状態においても緊急通報可能状態として表示することがあります。

故障とお考えになる前に

▲ 警告

緊急事態発生時に緊急通報できないときは、最寄りの公衆電話などから通報してください。

駐車支援システム

バックガイドモニター

バックガイドモニターの機能とはたらき★

▲ 警告

カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。

ガイド画面を表示する

▲ 警告

- 乗車人数、積載量、路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- クリアランスソナーの表示は、カメラ映像に重畳して表示しているため、周囲の明るさや色などによっては見えにくい場合があります。

ガイド線表示モードの切りかえ

▲ 警告

後方車幅延長線は、実際の車幅より広く表示されます。後退するときは、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

バックガイドモニターの注意点

運転時の注意事項

▲ 警告

- 画面だけを見ながら後退することは絶対にしないでください。画面に映っている映像と実際の状況は異なることがあり、画面だけを見て後退すると車をぶついたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。特に周辺に駐車している車や障害物などに接触しないようにしてください。後退するときは、必ず目視やミラーなどで後方や周囲の安全を直接確認してください。
- 後退するときは、ブレーキペダルを踏んで速度調整しながら、ゆっくり後退してください。
- 周辺の車両や障害物、人などに接触しそうとき、または路肩に乗り上げそうになったときは、ブレーキペダルを踏んで停車してください。
- バックガイドモニターの各モードの操作手順はあくまでも一例であり、駐車時の道路事情、路面、車の状況などにより、ハンドル操作のタイミングや操作量は異なります。以上のことを十分理解した上で、バックガイドモニターをご使用ください。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▲ 警告

- 駐車するときは、必ず駐車スペースに車を駐車できるかを確認してから後退してください。
- 次のような状況では、バックガイドモニターを使用しないでください。
 - ・ 雪道、凍結した道などのすべりやすい路面
 - ・ タイヤチェーン、応急用タイヤを使用しているとき
 - ・ バックドアが完全に閉まっていないとき
 - ・ カーブや坂道など平坦やまっすぐではない道路
 - ・ タイヤをメーカー指定のものから交換しているとき
 - ・ サスペンションを改造しているとき
- 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像がうすれたりすることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。
- タイヤサイズを変更した場合、画面に表示されるガイド線の位置に誤差が生じることがあります。
- カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。

画面に映る範囲

▲ 警告

- 車や路面の状況により、映る範囲は異なることがあります。
- バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。
- カメラより高い位置にあるものについては、モニターに映らないことがあります。

パノラミックビューモニター

パノラミックビューモニターの機能とはたらき★

▲ 警告

カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

両サイドビューについて

▲ 警告

- 乗車人数、積載量、路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- クリアランスソナーの表示は、カメラ映像に重畳して表示しているため、周囲の明るさや色などによっては見えにくい場合があります。

パノラミックビュー&バックビューについて

▲ 警告

- 乗車人数、積載量、路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- クリアランスソナー、RCTA（リヤクロストラフィックアラート）の表示は、カメラ映像に重畳して表示しているため、周囲の明るさや色などによっては見えにくい場合があります。

ガイド線表示モードの切りかえ

▲ 警告

後方車幅延長線は、実際の車幅より広く表示されます。後退するときは、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

パノラミックビューモニターの注意点

▲ 警告

- パノラミックビューモニターを過信しないでください。一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。特に周辺に駐車している車や障害物などに接触しないようにしてください。
- 運転操作時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- 画面だけを見ながら運転操作することは絶対にしないでください。画面に映し出されている映像と実際の状況は異なることがあります。また、カメラの映し出す範囲はかぎられています。画面だけを見て右左折、後退することは絶対にしないでください。車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。必ず目視やインナーミラー、ドアミラーなどで周囲の安全を確認し、十分注意した上で運転してください。
- 乗車人数、積載量、路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- 次のような状況では、使用しないでください。
 - ・ 凍結、すべりやすい路面、または雪道
 - ・ タイヤチェーン、応急用タイヤを使用しているとき

▲ 警告

- フロントドア、バックドアが完全に閉まっていないとき
- 坂道など平坦でない道路
- タイヤをメーカー指定のものから交換しているとき
- サスペンションを改造しているとき
- 画面に映るエリアに社外品を装着しているとき
- 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像がうすれることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。
- タイヤを交換すると、画面に表示されるガイド線の示す位置に誤差が生じることがあります。

画面に映る範囲

▲ 警告

- カメラの映し出される範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの真下付近にあるものは映し出されません。
- 画面に映る映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- ワイドフロントビューのカメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に映る映像の距離感実際の距離とは異なります。

▲ 警告

- 車や路面の状況により、映る範囲は異なることがあります。
- カメラの映し出される範囲には限度があり、助手席側のバンパー付近やバンパーの真下付近にあるものは映し出されません。
- 画面に映る映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- 両サイドビューのカメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に映る映像の距離感実際の距離とは異なります。

▲ 警告

- 車や路面の状況により、映る範囲は異なることがあります。
- カメラの映し出される範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの真下付近にあるものは映し出されません。
- 画面に映る映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- バックカメラより高い位置にあるものについては、モニターに映らないことがあります。

画面と実際の立体物との誤差

▲ 警告

クリアランスソナーの表示が赤色のときは、必ず直接確認して、それ以上進まないでください。車をぶつけるなど、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

パノラミックビューモニター（シースルービュー&ムービングビュー付き）

パノラミックビューモニターの機能とはたらき（シースルービュー&ムービングビュー付）★

▲ 警告

カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。

シフトポジションがD、Nのときの表示モード

▲ 警告

- 乗車人数、積載量、路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- クリアランスソナー、移動物警報の表示は、カメラ映像に重畳して表示しているため、周囲の明るさや色などによっては見えにくい場合があります。

シフトポジションがRのときの表示モード

▲ 警告

- 乗車人数、積載量、路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- クリアランスソナー、RCTA（リヤクロストラフィックアラート）、RCD（リヤカメラディテクション）、移動物警報の表示は、カメラ映像に重畳して表示しているため、周囲の明るさや色などによっては見えにくい場合があります。

ガイド線表示モードの切りかえ

▲ 警告

- ハンドルがまっすぐ（直進状態）で車幅延長線と予想進路線がずれているときは、できるだけ曲り角やカーブなどがなく、渋滞の少ない道路を前進で約5分間以上走

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▲ 警告

行してください。それでも直らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 後方車幅延長線は、実際の車幅より広く表示されます。後退するときは、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

床下透過映像を表示する

▲ 警告

- 次のような状況では、システムが正常に作動しない場合があります。
 - ・ 積雪路
 - ・ 照明などによる影があるとき
 - ・ カメラレンズに汚れや異物が付着しているとき
 - ・ 水面（川、海など）
 - ・ オプション装備を取り付けたとき
 - ・ カメラの前に障害物があるとき
 - ・ タイヤを交換したとき
 - ・ バックドアが開いて、カメラの位置が正しくない場合
 - ・ すべりやすい路面や車輪が空転したとき
 - ・ 坂道などの勾配があるとき
- 過去に撮影された映像を表示しているため、次のような場合は、画面と実際の状況が異なることがあります。
 - ・ 撮影後に障害物が現れたり動いたりしたとき
 - ・ 撮影後に砂や雪などが崩れて動いたとき
 - ・ 表示範囲に水たまりやぬかるみなどがあるとき
 - ・ 車両がスリップしたとき
- 乗車人数、積載量、路面の勾配、路面状況、周囲の明るさ、オプションの装備、タイヤの履きかえなどにより、タイヤ形状線や車両形状目安線と実際の車両位置がずれる場合があります。必ず周囲の安全を確認しながら運転してください。
- 表示される映像は、過去に撮影された映像です。そのため、撮影後に障害物が動くなど、床下透過映像表示と実際の状況とが必ずしも一致しない場合があります。

移動物警報★

▲ 警告

- 次のような場合、カメラが移動物を正しく検知できないことがあります。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▲ 警告

- 走っている人
- 自転車や建物の影から突然現れる人
- スケートボード、その他の軽車両などに乗っている人
- 周囲の色とよく似た色の服装の人
- カートや荷物などにより体の一部が隠れている人
- 夜間（日没後）
- 悪天候（雨、雪、霧など）
- レンズに汚れ（泥、融雪剤など）や傷があるとき
- カメラレンズに水滴が流れているとき
- 強い光がカメラに直接あたっているとき
- 明暗差があるとき（ガレージや地下駐車場の開いたシャッター付近など）

パノラミックビューモニターの注意点**▲ 警告**

- パノラミックビューモニターを過信しないでください。一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。特に周辺に駐車している車や障害物などに接触しないようにしてください。
- 運転操作時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- 画面だけを見ながら運転操作することは絶対にしないでください。画面に映し出されている映像と実際の状況は異なることがあります。また、カメラの映し出す範囲はかぎられています。画面だけを見て右左折、後退することは絶対にしないでください。車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。必ず目視やインナーミラー、ドアミラーなどで周囲の安全を確認し、十分注意した上で運転してください。
- 乗車人数、積載量、路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- 次のような状況では、使用しないでください。
 - 凍結、すべりやすい路面、または雪道
 - タイヤチェーン、応急用タイヤを使用しているとき
 - フロントドア、バックドアが完全に閉まっていないとき
 - 坂道など平坦でない道路
 - タイヤをメーカー指定のものから交換しているとき
 - サスペンションを改造しているとき
 - 画面に映るエリアに社外品を装着しているとき

▲ 警告

- 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像がうすれることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。
- タイヤを交換すると、画面に表示されるガイド線の示す位置に誤差が生じることがあります。

画面に映る範囲

▲ 警告

- カメラの映し出される範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの真下付近にあるものは映し出されません。
- 画面に映る映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- ワイドフロントビューのカメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に映る映像の距離感は実際の距離とは異なります。

▲ 警告

- 車や路面の状況により、映る範囲は異なることがあります。
- カメラの映し出される範囲には限度があり、助手席側のバンパー付近やバンパーの真下付近にあるものは映し出されません。
- 画面に映る映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- 両サイドビューのカメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に映る映像の距離感は実際の距離とは異なります。

▲ 警告

- 車や路面の状況により、映る範囲は異なることがあります。
- カメラの映し出される範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの真下付近にあるものは映し出されません。
- 画面に映る映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- バックカメラより高い位置にあるものについては、モニターに映らないことがあります。

画面と実際の立体物との誤差

▲ 警告

クリアランスソナーの表示が赤色のときは、必ず直接確認して、それ以上進まないでください。車をぶつけるなど、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

ETC の利用

ETC のサービス概要

ETC サービスについて

ETC を利用する前に

▲ 警告

安全のため、運転者は走行中に ETC カードの抜き差し、および ETC2.0 ユニットの操作を極力しないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。車を停車させてから操作をしてください。

ETC の操作

ETC2.0 ユニットの使い方

ETC ゲート（入口・出口／精算用）の通過について

▲ 警告

運転者は走行中にランプ表示を見ないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

利用履歴を確認する

▲ 警告

ETC ゲート付近では、利用履歴の確認を行わないでください。路側無線装置と通信ができなくなるなど、ETC 車線に設置されている開閉バーが開かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

付録

付録

認証・商標についての情報

通信モジュール（DCM）についての情報

- 通信モジュール（DCM）は、電波法および電気通信事業法の基準に適合しています。製品本体のネームプレートはその証明ですので、ネームプレートの記載を削除しないでください。
- 通信モジュール（DCM）を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。
- フリー／オープンソースソフトウェア情報について
 - 本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。
<https://www.denso.com/global/en/opensource/dcm/toyota/>

ETC2.0 ユニットについての情報

ETC2.0 ユニットは電波法の基準に適合しています。製品上の記載を削除しないでください。また、ETC2.0 ユニートを分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

QR コードについて

QR コードは(株)デンソーウェブの登録商標です。

2-1. トラブルに対処する

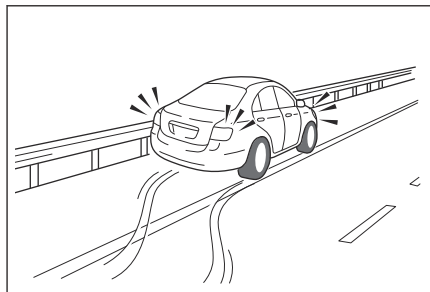
車両が故障したときの対応.....	128
車両を緊急停止するには	130
けん引について	132
警告灯がついたときは	134
警告メッセージが表示された ときは	140
パンクしたときは	149
電子キーが正常に働かないと きは	151
補機バッテリーがあがったと きは	152
オーバーヒートしたときは.....	153
スタックしたときは.....	155

車両が故障したときの対応

非常点滅灯（ハザードランプ）を使う

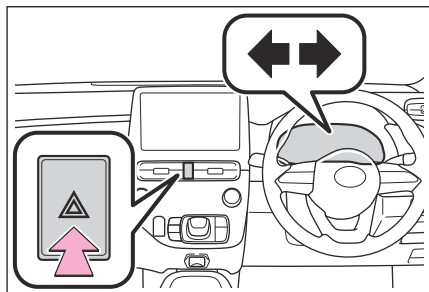
非常点滅灯を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使います。



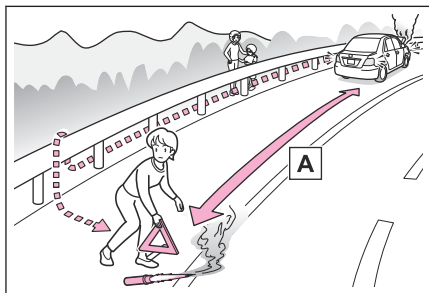
スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。もう一度押すと消灯します。



高速道路や自動車専用道路では

- 1 同乗者を避難させる
- 2 車両の 50m 以上後方 (A) に発炎筒と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する

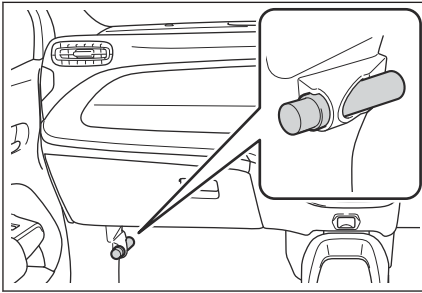


- 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
- 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。

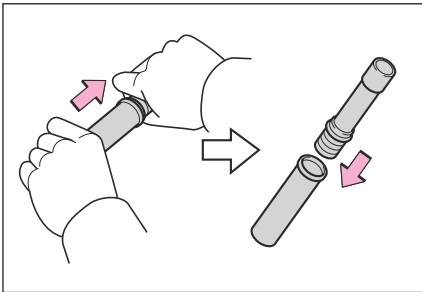
3 その後、ガードレールの外側などに避難する

発炎筒を使うには

1 助手席足元の発炎筒を取り出す

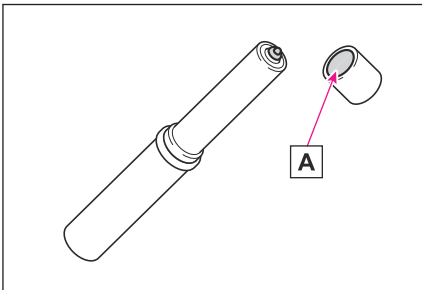


2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬Aで発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



車両を緊急停止するには

各対処法の手順や注意事項等については、WEB 掲載のデジタル取扱説明書をお読みください。



車を停止するには

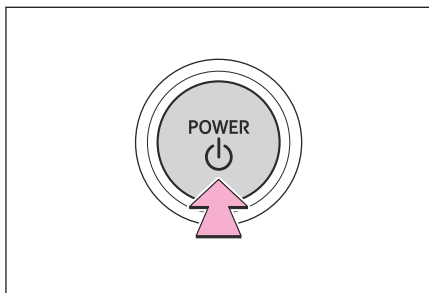
万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車両を停止させてください。

シフトポジションが N になった場合

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける
ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。
- 2 シフトポジションを N にする
- 3 減速後、車を安全な道路脇に停める
- 4 ハイブリッドシステムを停止する

シフトポジションが N にならない場合

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける
ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。
- 2 シフトポジションを N にする
- 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる
- 4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してハイブリッドシステムを停止する



5 車を安全な道路脇に停める

けん引について

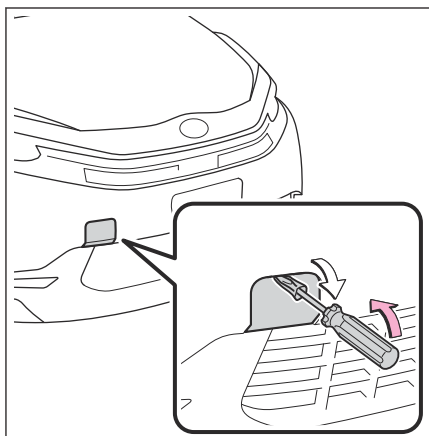
各対処法の手順や注意事項等については、WEB 掲載のデジタル取扱説明書をお読みください。

他車にけん引してもらうとき

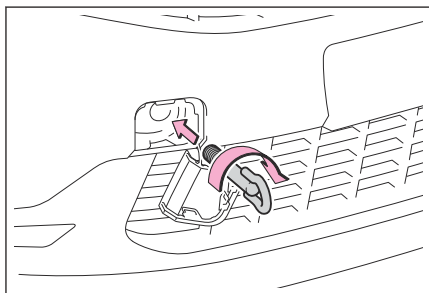
他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

- 1 ラゲージルーム内のホイールナットレンチ^{*1}、マイナスドライバー^{*1}、けん引フックを取り出す
- 2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

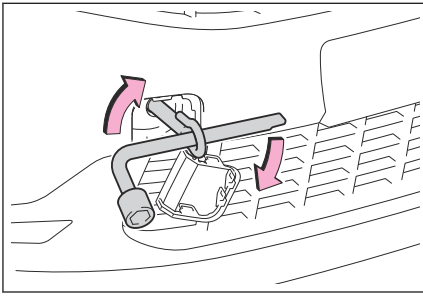


- 3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



- 4 ホイールナットレンチ^{*1}や金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

^{*1}: トヨタ販売店で購入することができます。

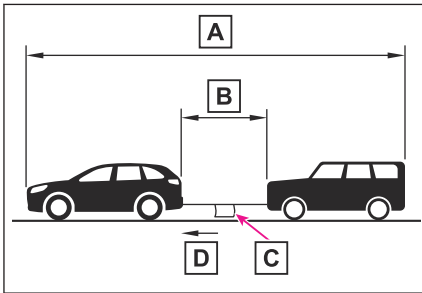


5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：0.3m 平方（30cm×30cm）以上



- A 25m 以内
- B 5m 以内
- C 白い布
- D けん引方向

7 運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを ON にしてください。

8 けん引される車両のシフトポジションを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	● ブレーキ液の不足 ● ブレーキシステムの異常 →ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	● 回生ブレーキシステムの異常 ● 電子制御ブレーキシステムの異常 ● パーキングブレーキシステムの異常 →ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 高水温警告灯*¹（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジン冷却水の高温異常 →ただちに安全な場所に停車し、対処方法(→ P.153)に従ってください。

■ ハイブリッドシステム過熱警告灯*¹（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ハイブリッドシステムの高温異常 →安全な場所に停車し、対処方法(→ P.153)に従ってください。

■ 充電警告灯*¹（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	充電システムの異常 →ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

*1: マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 油圧警告灯^{*1}（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジンオイル圧力の異常 →ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

■ エンジン警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	● ハイブリッドシステムの異常 ● エンジン電子制御システムの異常 ● 電子制御スロットルの異常 →ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	● SRS エアバッグシステムの異常 ● プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 →ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ ABS & ブレーキアシスト警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	● ABS の異常 ● ブレーキアシストの異常 →ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

^{*1}: マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ ペダル誤操作警告灯*¹（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ブザーが鳴った場合： ● ブレーキオーバーライドシステムの異常 ● ドライブスタートコントロールの異常 ● ドライブスタートコントロール作動時 →マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 ブザーが鳴らなかった場合： ブレーキオーバーライドシステム作動時 →アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■ パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
(赤色) 	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 →ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
(黄色) 	

■ 燃料残量警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	燃料の残量が約 5.4L 以下になった →燃料を補給する

■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー*²）

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルトの非着用 →シートベルトを着用する 助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。

*1: マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

*2: 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ リヤ席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー^{*1}）

警告灯	警告内容・対処方法
	リヤ席シートベルトの非着用 →シートベルトを着用する

■ PCS 警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	PCS（プリクラッシュセーフティ）の異常が考えられます。 →ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。

■ LTA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	LTA（レーントレーシングアシスト）の異常が考えられます。 →ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ LDA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	LDA（レーンディパーチャーアラート）の異常が考えられます。 →ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ PDA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	PDA（プロアクティブドライビングアシスト）の異常が考えられます。 →ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

^{*1}: リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯している状態）のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ レーダークルーズコントロール表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	レーダークルーズコントロールの異常が考えられます。 →ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ クルーズコントロール表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	クルーズコントロールの異常が考えられます。 →ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ 運転支援情報表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	次のシステムに異常が考えられます。 ● PCS（プリクラッシュセーフティ） ● LDA（レーンディパーチャーアラート） →ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 次のシステムのいずれかが異常、停止、または設定が OFF になっています。 ● PKSB（パーキングサポートブレーキ） ● RCD（リヤカメラディテクション）★ ● BSM（ブラインドスポットモニター）★ ● RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★ ● 安心降車アシスト★ →ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ クリアランスソナー OFF 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (点灯)	クリアランスソナーの異常 →ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない →マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	● VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムの異常 ● TRC（トラクションコントロール）システムの異常 ● ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 →ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ パーキングブレーキ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性がある →パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。 パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

■ ブレーキホールド作動表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	ブレーキホールドシステムの異常 →ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。また、メッセージと同時に専用警告灯が点灯・点滅する場合があります。その際は、各警告灯が点灯・点滅したときの対処方法(→ P.134)に従ってください。

メッセージと警告作動

■ 警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■ 警告ブザーについて

メッセージの内容によってブザーが鳴る場合があります。状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■ “駐車時はPレンジに入れてください”が表示されたときは

シフトポジションがP以外でパワースイッチをOFFにせずに運転席ドアが開いたときにメッセージが表示されます。

駐車時はPにしてください。

■ “エンジンオイル量不足 補充するか、交換してください”が表示されたときは

エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。

また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

■ “ハイブリッドシステム停止のためハンドルが重くなります”が表示されたときは

走行中にハイブリッドシステムが停止したときにメッセージが表示されます。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■ “ハイブリッドシステム 高温出力制限中です”が表示されたときは

負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。

対処方法：→ P.153

■ “駆動用電池保護が必要 Nレンジの使用を控えてください”が表示されたときは

シフトポジションがNのときにメッセージが表示されることがあります。

シフトポジションが N では充電できないため、停車するときはシフトポジションを P にしてください。

■ “駆動用電池保護が必要 P レンジにして再始動してください”が表示されたときは

一定時間シフトポジションが N になっているため、駆動用電池の残量が低下したときにメッセージが表示されます。

車両を動かす場合は、シフトポジションを P にして、ハイブリッドシステムを再始動してください。

■ “N レンジです アクセルを緩めて希望レンジに切りかえてください”が表示されたときは

シフトポジションが N で、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。

アクセルペダルから足を離し、ブレーキを踏んでからシフトポジションを D または R にしてください。

■ “停車時はブレーキを踏んでください”が表示されたときは

上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持するとメッセージが表示される場合があります。

そのままの状態を続けるとハイブリッドシステムが過熱するおそれがあります。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■ “バッテリー保護のため自動で電源を OFF しました”が表示されたときは

自動電源 OFF 機能が作動したときにメッセージが表示されます。次回ハイブリッドシステム始動時に、約 5 分間ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

■ “ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください”が表示されたときは

次のシステムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

● LED ヘッドランプ

● AHB（オートマチックハイビーム）

■ 4WD システムに関するメッセージが表示されたとき(4WD 車)

それぞれ、次のように対処してください。

● “4WD システム高温 高負荷走行を 控えてください”

4WD システムが過熱しています。ハイブリッドシステムを作動させたまま安全な場所に停車してください。^{*1}

しばらくして表示が消えれば問題ありません。表示が消えないときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

^{*1}: 停車時は表示が消えるまでハイブリッドシステムを停止しないでください。

● “4WD システム高温 2 WD 走行に切り替わりました”

過熱のため 4WD システムが一時解除され、前輪駆動走行に切り替わりました。HV システムを作動させたまま安全な場所に停車してください。^{*1}

しばらくして表示が消えれば問題ありません。4WD システムが自動的に復帰します。表示が消えないときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

● “4WD システム故障 2WD 走行になります 販売店で点検してください”

4WD システムに異常発生しています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ “ソナーに水滴、雪等が付着しています”が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに水滴、氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの水滴、氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。

また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

汚れているセンサーの位置はディスプレイ上に表示されます。

水滴・氷・雪・泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ “機能停止 周辺監視用カメラ視界不良 取扱書を確認”が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

● RCD（リアカメラディテクション）★

● PKSB（パーキングサポートブレーキ）

後方カメラの汚れや付着物を取り除いてください。

■ “機能停止 ドアミラー状態確認 ドアミラーを開け直してください”が表示されたときは

ドアミラーが閉じているため PKSB が一時的に使用できません。ドアミラーを開け直してください。また、補機バッテリーを脱着したときやあがったときはドアミラーを開閉してください。

■ “機能故障 販売店で点検”が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

● PCS（プリクラッシュセーフティ）

● LDA（レーンディパーチャーアラート）

^{*1}: 停車時は表示が消えるまでハイブリッドシステムを停止しないでください。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

-  LTA（レーントレーシングアシスト）
-  AHB（オートマチックハイビーム）
-  レーダークルーズコントロール
-  RSA（ロードサインアシスト）
-  発進遅れ告知
-  PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
-  BSM（ブラインドスポットモニター）★
-  RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★
-  安心降車アシスト★
-  クリアランスソナー
-  PKSB（パーキングサポートブレーキ）
-  RCD（リアカメラディテクション）★

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ “機能停止 取扱書を確認”が表示されたときは次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS（プリクラッシュセーフティ）
-  LDA（レーンディパーチャーアラート）
-  LTA（レーントレーシングアシスト）
-  AHB（オートマチックハイビーム）
-  レーダークルーズコントロール
-  RSA（ロードサインアシスト）
-  発進遅れ告知
-  PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
-  BSM（ブラインドスポットモニター）★
-  RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★
-  安心降車アシスト★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

-  クリアランスソナー
-  PKSB（パーキングサポートブレーキ）
-  RCD（リアカメラディテクション）★

次の対処法に従ってください。

- 補機バッテリー電圧を確認する
- Toyota Safety Sense で使用するセンサーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。
- センサーが正しく作動しなくなる状況を確認し、該当する場合は改善してください。^{*1}
- センサー周辺のリヤバンパーに付着物がないか確認し、ある場合は取り除いてください。
- RCD 装着車：バックドアが開いていないか確認してください。
- センサーとカメラに付着物がないか確認し、ある場合には取り除いてください。

センサーが正しく作動しなくなる状況が解決すると、表示が消える場合があります。

■ “機能停止 前方カメラ視界不良 取扱書を確認”が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS（プリクラッシュセーフティ）
-  LDA（レーンディパーチャーアラート）
-  LTA（レーントレーニングアシスト）
-  AHB（オートマチックハイビーム）
-  レーダークルーズコントロール
-  RSA（ロードサインアシスト）
-  発進遅れ告知
-  PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。

- ワイパー機能を使って、フロントウィンドウガラスの汚れや付着物を取り除く。
- エアコン機能を使って、フロントウィンドウガラスの曇りを取り除く。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

^{*1}：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

- ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、カメラの視界を遮らないようにする。
- “機能停止 前方カメラ作動温度範囲外 常温までお待ちください”が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS（プリクラッシュセーフティ）
-  LDA（レーンディパーチャーアラート）
-  LTA（レーントレーシングアシスト）
-  AHB（オートマチックハイビーム）
-  レーダークルーズコントロール
-  RSA（ロードサインアシスト）
-  発進遅れ告知
-  PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。

- 炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる
- 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウィンドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります
- 極寒での駐車時など、前方カメラが低温の時は、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる

- “機能停止 前方レーダー汚れ 汚れを除去してください”が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS（プリクラッシュセーフティ）
-  LTA（レーントレーシングアシスト）
-  レーダークルーズコントロール
-  発進遅れ告知
-  PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。

- レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。

- 砂漠・草原・郊外などの、周辺車両や構造物が少ない広々とした地域を走行すると表示される場合があります。車両周辺に構造物や車両などが存在する場所まで走行すると、表示が消える場合があります。

■ “機能停止 前方レーダー作動温度範囲外 常温までお待ちください”が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS（プリクラッシュセーフティ）
-  LTA（レーントレーシングアシスト）
-  レーダークルーズコントロール
-  発進遅れ告知
-  PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

レーダー周辺の温度が作動条件外です。適切な温度になるまでお待ちください。

■ “機能停止 前方レーダー向き調整中 取扱書を確認”が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS（プリクラッシュセーフティ）
-  LTA（レーントレーシングアシスト）
-  レーダークルーズコントロール
-  発進遅れ告知
-  PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。

- レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。
- レーダーの向きがずれている可能性があり、レーダーが走行中に自動で再調整しています。しばらく走行を続けてください。

■ “アクセルを戻してください”が表示されたとき

次の機能が作動したときに表示されます。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

- ドライブスタートコントロール
- プラスサポート(販売店装着オプション)

■ “クルーズコントロール 使用できません 取扱書を確認してください”が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

- レーダークルーズコントロール
- クルーズコントロール

走行支援スイッチを短時間に繰り返し操作したときにメッセージが表示されることがあります。

走行支援スイッチを短く確実に押してください。

■ “シフトシステム故障 シフト切りかえ不可 安全な場所まで走行し 停車”または“シフトシステム故障走行を継続できません”が表示されたときは

シフト制御システムが故障しています。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ シフト操作に関するメッセージが表示されたときは

誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、自動的にシフトポジションが切りかわったり、シフトレバーの操作が指示されたりすることがあります。その場合は、画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

■ 販売店での点検をうながすメッセージが表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 取扱説明書の確認をうながすメッセージが表示されたときは

- “エンジン冷却水高温”が表示されたときは、対処方法(→ P.153)に従ってください。
- 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 - “スマートエントリー&スタートシステム故障”
 - “ハイブリッドシステム故障”
 - “エンジン系故障”
 - “バッテリー系故障”
 - “アクセル系故障”
 - “シフトシステム故障 駐車時はパーキングブレーキをかけ 取扱書確認”
 - “P スイッチ故障 駐車時は パーキングブレーキをかけ 取扱書確認”
 - “シフトシステム不動作 駐車時は パーキングブレーキをかけ 取扱書確認”
 - “シフトシステム故障 取扱書確認”
 - “バッテリー充電不足 シフト切りかえできません 取扱書確認”

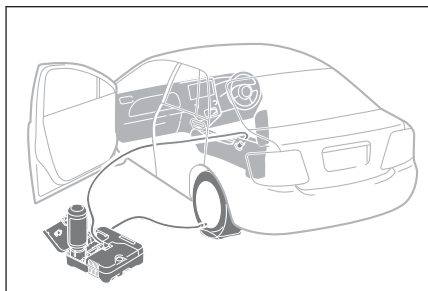
- 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続ける危険です。
 - “シフトシステム故障 安全な場所に停車し 取扱書確認”
 - “故障のためブレーキ力が低下します”
 - “充電システム故障”
 - “エンジン油圧不足”
- 次のメッセージが表示されたときは、ガス欠になっている可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、燃料残量が少ない場合は給油してください。
 - “ハイブリッドシステム停止”
 - “エンジン停止”
- “補機バッテリー（始動用）充電不足”が表示されたときは、次の対処方法に従ってください。
 - 数秒後^{*1}に表示が消えたときは：ハイブリッドシステムが作動した状態を約 15 分以上保持し、補機バッテリーを充電してください。
 - 表示が消えないときは：「補機バッテリーがあがったときは」(→ P.152)の手順でハイブリッドシステムを始動してください。
- “駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認”が表示されたときは、フィルターが目づまりしている、冷却用の吸入口がふさがれている、またはダクトにすき間があるなどが考えられますので、次の対処方法に従ってください。
 - 駆動用電池冷却用吸入口を清掃する^{*2}
駆動用電池冷却用吸入口を清掃してもメッセージが表示されたときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

*1: 約 6 秒間表示されます。

*2: WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

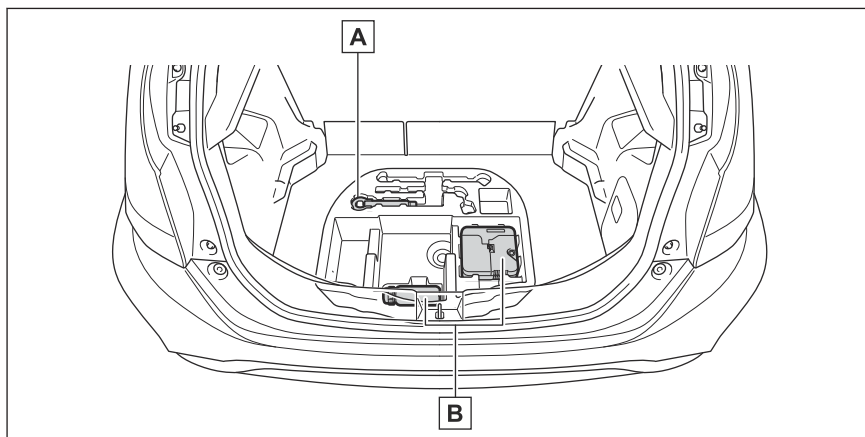
パンクしたときは

各対処法の手順や注意事項等については、WEB 掲載のデジタル取扱説明書をお読みください。



タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置

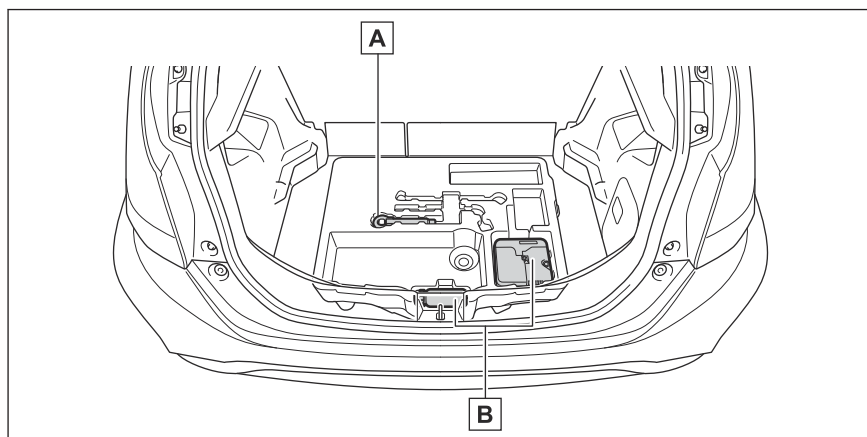
▶ FF 車



A けん引フック

B タイヤパンク応急修理キット

▶ 4WD 車



A けん引フック

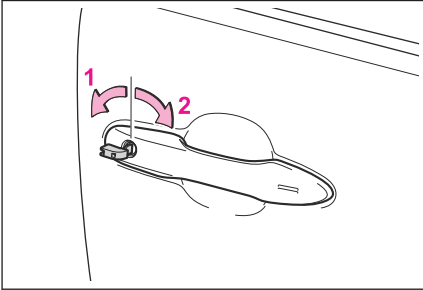
B タイヤパンク応急修理キット

電子キーが正常に働かないときは

各対処法の手順や注意事項等については、WEB 掲載のデジタル取扱説明書をお読みください。

ドアの施錠・解錠

メカニカルキーを使って次の操作ができます。(運転席ドアのみ)

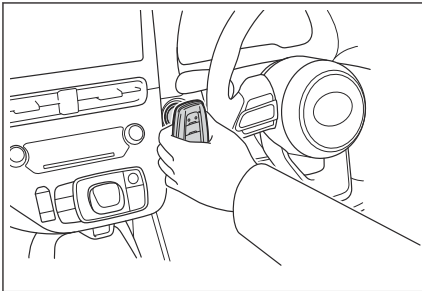


- 1 全ドア解錠
- 2 全ドア施錠

ハイブリッドシステム始動の方法

- 1 シフトポジションがPの状態ブレーキペダルを踏む
- 2 スイッチが付いている側を表にして、電子キーでパワースイッチにふれる
電子キーを認識するとブザーが鳴り、ON へ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定が非作動になっている、かつACC カスタマイズがON のときは、ACC へ切りかわります。

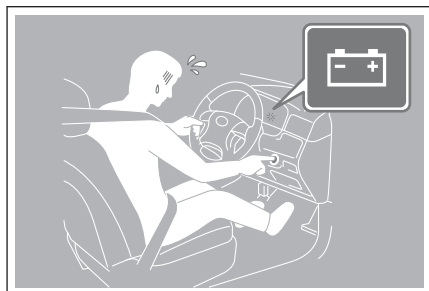


- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイにが表示されていることを確認する
- 4 パワースイッチを短く確実に押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

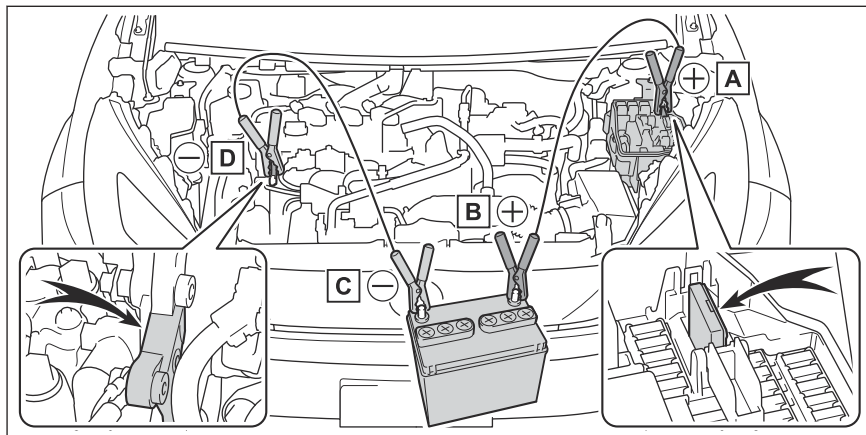
補機バッテリーがあがったときは

各対処法の手順や注意事項等については、WEB 掲載のデジタル取扱説明書をお読みください。



ハイブリッドシステムを再始動するには

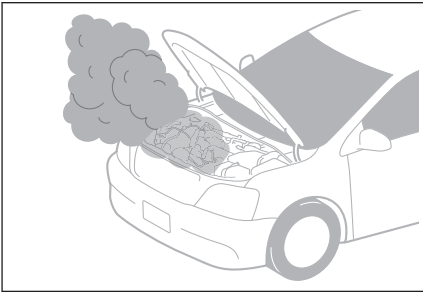
赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子[A]につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子[B]につなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子[C]につなぎ、もう一方の端を金属部[D]につなぐ。ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所へ届くものを使用してください。



- A 救援用端子（自車）
- B バッテリーの＋端子（救援車）
- C バッテリーの－端子（救援車）
- D 図に示す金属部

オーバーヒートしたときは

各対処法の手順や注意事項等については、WEB 掲載のデジタル取扱説明書をお読みください。



対処方法

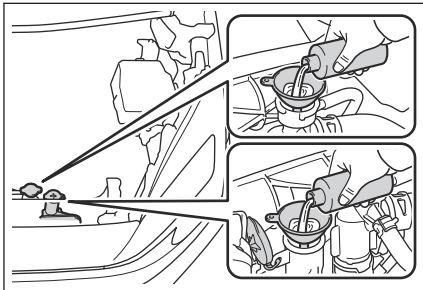
マルチインフォメーションディスプレイに“エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください”が表示されたとき

- 1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、ハイブリッドシステムを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

蒸気が出ていない場合：注意してボンネットを開ける

- 3 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

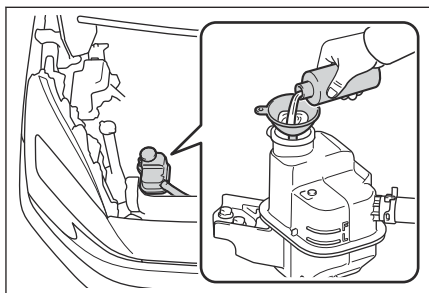
冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



マルチインフォメーションディスプレイに“ハイブリッドシステム 高温出力制限中です”が表示されたとき

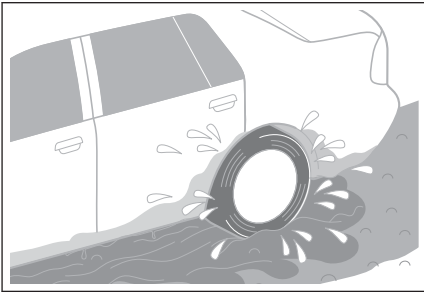
- 1 安全な場所に停車する
- 2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける
- 3 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



スタックしたときは

各対処法の手順や注意事項等については、WEB 掲載のデジタル取扱説明書をお読みください。



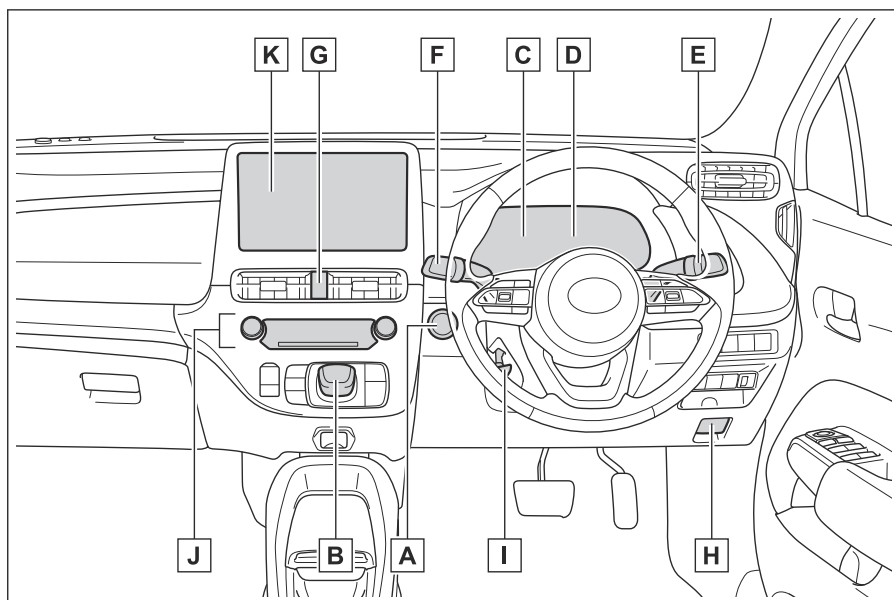
脱出するには

- 1 パーキングブレーキをかけシフトポジションを P にして、ハイブリッドシステムを停止する
- 2 前輪周辺の土や雪などを取り除く
- 3 前輪の下に木や石などをあてがう
- 4 ハイブリッドシステムを再始動する
- 5 シフトポジションを確実に D または R にし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

3-1. 各部の名称と働き

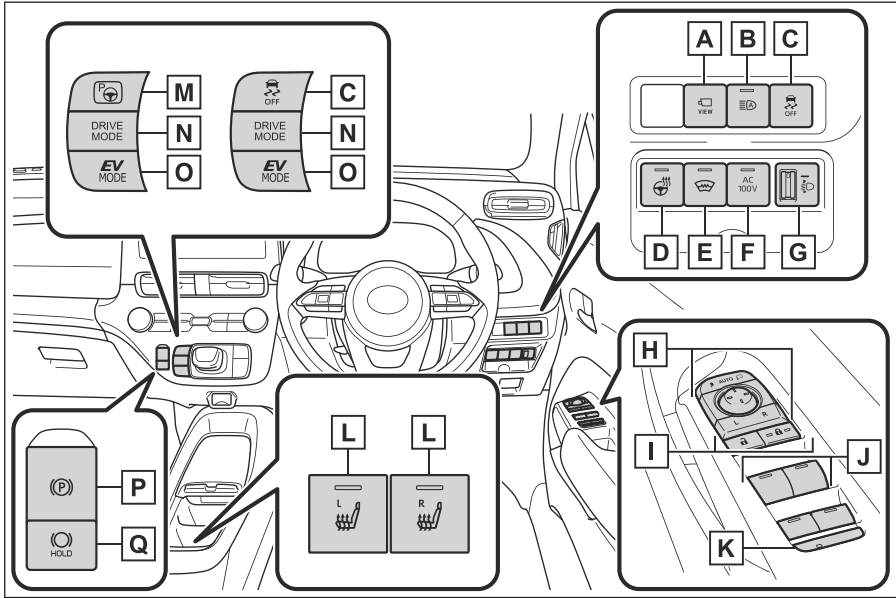
運転席まわり	158
スイッチ操作	159
ステアリングスイッチ操作	161
メーター表示	162

運転席まわり



- A** パワースイッチ
- B** シフトレバー
- C** メーター
- D** マルチインフォメーションディスプレイ
- E** 方向指示レバー／ランプスイッチ
- F** ワイパー&ウォッシャースイッチ
- G** 非常点滅灯スイッチ
- H** ボンネット解除レバー
- I** ハンドル位置調整レバー
- J** エアコン
- K** オーディオ

スイッチ操作



A パノラミックビューモニターメインスイッチ★

車両上方からの映像をマルチメディアディスプレイ表示させることで、低速時の運転を補助する

B オートマチックハイビームスイッチ

ハイビームとロービームが自動的に切りかわる

C VSC OFF スイッチ★

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに使用する（脱出しやすくなることもある）

D ステアリングヒータースイッチ★

ハンドルのグリップ部を暖める

E フロントワイパーデアイサースイッチ★

フロントウィンドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐ

F AC100V スイッチ

アクセサリーコンセント／非常時給電システムを使用する

G 手動光軸調整ダイヤル

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

乗車人数などによる車両の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整する

H ドアミラースイッチ

I ドアロックスイッチ

J パワーウインドウスイッチ

K ウインドウロックスイッチ

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止する

L シートヒータースイッチ★

シートの表面を暖める

M アドバンストパークメインスイッチ★

ハンドル／アクセル操作などがシステムによって制御され、駐車や出庫をアシストする

N ドライブモードセレクトスイッチ

通常走行モードから、パワー+／エコドライブモードに切りかえる

O EV ドライブモードスイッチ

電気モーターのみを使って走行するモードに切りかえる

P パーキングブレーキスイッチ

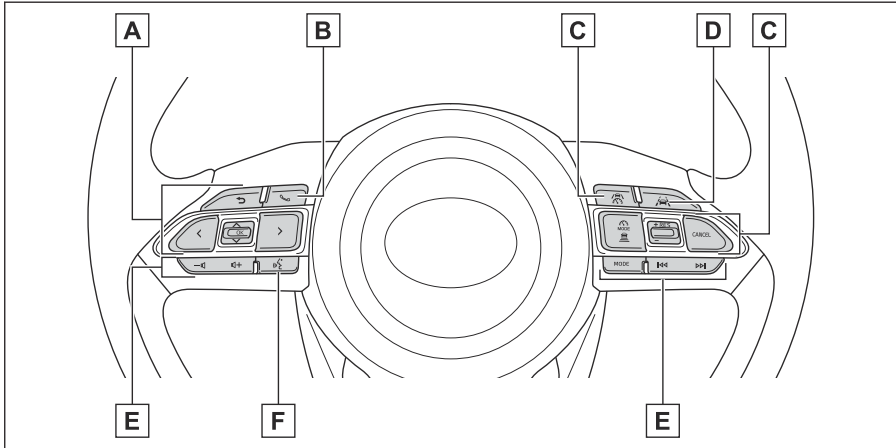
引くとパーキングブレーキがかかる、押すとパーキングブレーキが解除される（マニュアルモード）

Q ブレーキホールドスイッチ

システムが ON のとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持される

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ステアリングスイッチ操作



A メーター操作スイッチ

メーター表示のメニュー／表示項目などを切りかえる

B 電話スイッチ

ハンズフリー接続時、電話を受ける／切るなどの操作を行う

C クルーズコントロールスイッチ

レーダークルーズコントロール

高速道路や自動車専用道路で、先行車追従走行を支援する（適切な車間距離の確保を制御）

クルーズコントロール

高速道路や自動車専用道路で、アクセルペダルを踏まずに一定の車速で走行する

D LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ

レーダークルーズコントロールの作動中に、車線維持に必要なハンドル操作を支援する

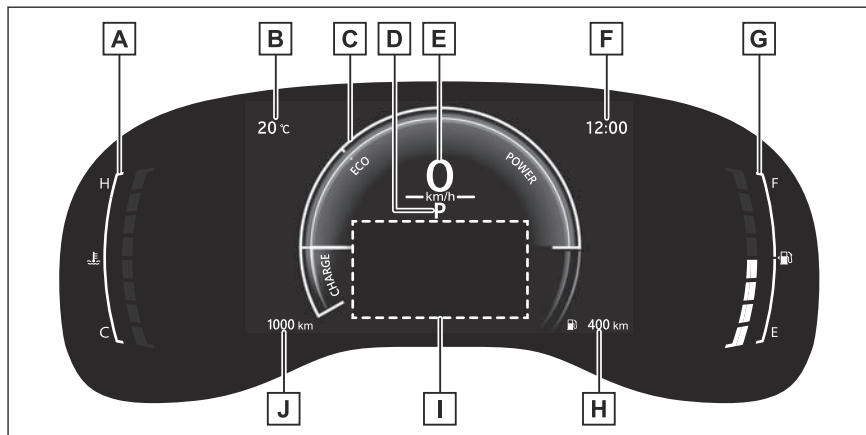
E オーディオスイッチ

ソースを切りかえる、消音などの操作を行う（消音は MODE スイッチ長押し）

F トークスイッチ

エージェント（音声対話サービス）を起動して、マルチメディアシステムなどを音声で操作する

メーター表示



A 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

B 外気温

外気温度を - 40 °C ~ 60 °C のあいだで表示します。0 ~ 約 25km/h 以下で走行するときは温度表示の更新が遅くなることがあります。

C ハイブリッドシステムインジケーター/タコメーター

ハイブリッドシステムインジケーター: ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。

タコメーター: 毎分のエンジン回転数を示します。

D シフトポジション表示灯

E デジタルスピードメーター

F 時計

G 燃料計

H 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。

I マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。

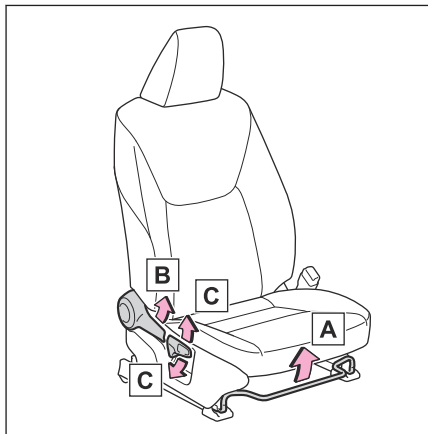
J オドメーター

4-1. 正しい運転姿勢と運転

フロントシートを調整する.....	164
ヘッドレストを調整する	165
ハンドルの上下／前後位置を 調整する	166
インナーミラーの位置を調整 する	167
ドアミラーの角度を調整する ...	168
シートベルトを正しく着用す る	169
シフトポジションを切りかえ る	171
パーキングブレーキをかける ...	173

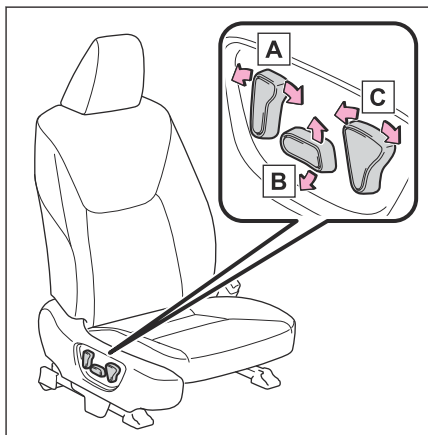
フロントシート★を調整する

▶ マニュアルシート装着車



- A** 前後位置調整（スライドレバー）
- B** リクライニング調整
- C** クッション全体の上下調整★（運転席のみ）

▶ 運転席パワーシート装着車

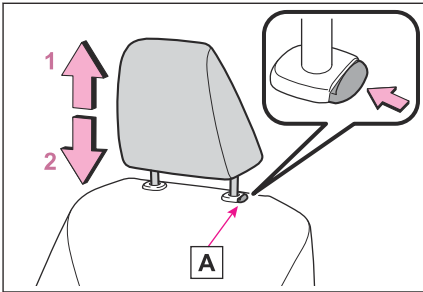


- A** リクライニング調整
- B** シート全体の上下調整
- C** 前後位置調整

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ヘッドレストを調整する

■ フロント席



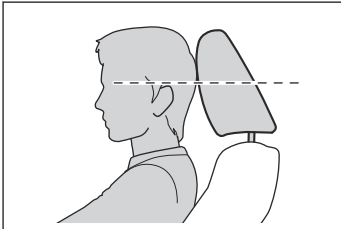
1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタン **A** を押しながら操作します。

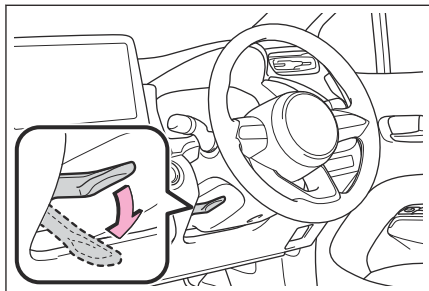
■ フロント席のヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



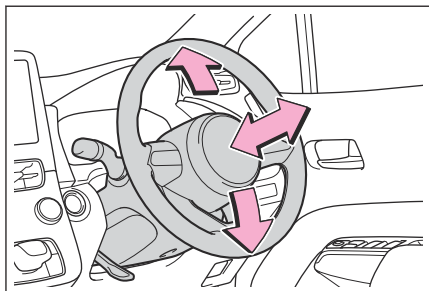
ハンドルの上下／前後位置を調整する

1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



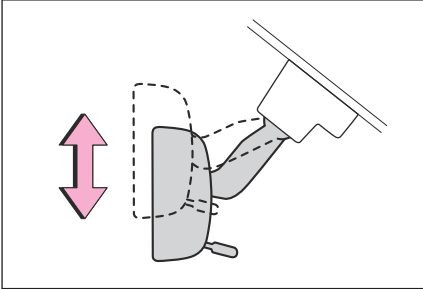
2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



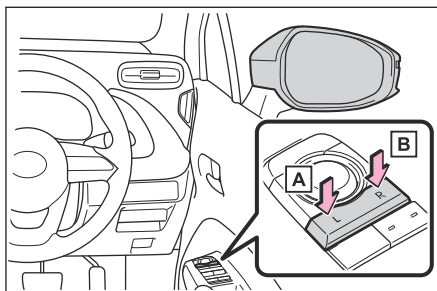
インナーミラーの位置を調整する

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



ドアミラーの角度を調整する

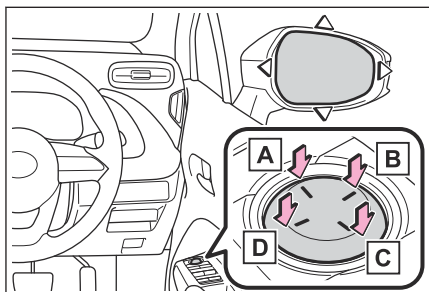
1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す



A 左

B 右

2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する



A 上

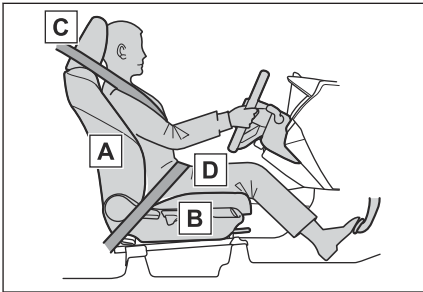
B 右

C 下

D 左

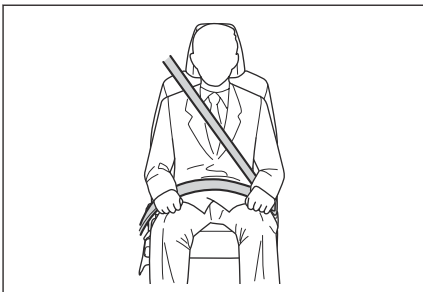
シートベルトを正しく着用する

正しい運転姿勢について



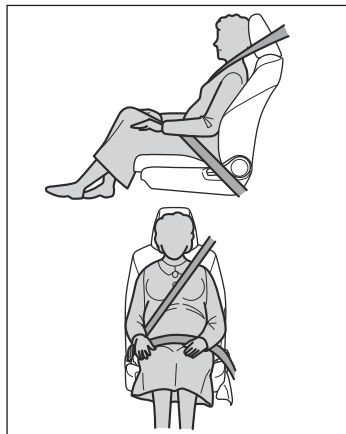
- [A] まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する
- [B] ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする
- [C] ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする
- [D] シートベルトを正しく着用する

正しく着用する



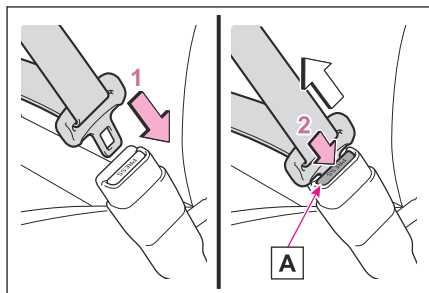
- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする

妊娠中の女性の場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるとしてお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるとして着用してください。

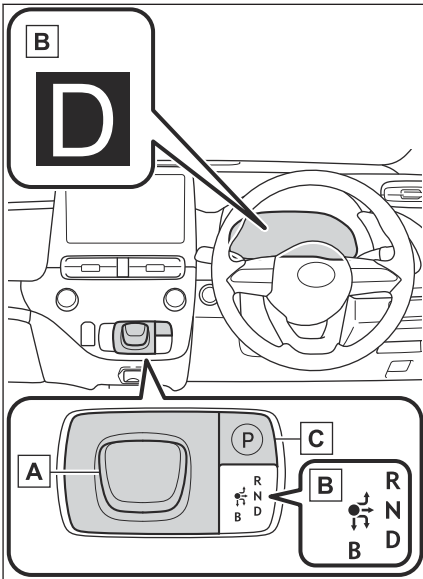
着け方・はずし方



- 1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートバックルに挿し込む
- 2 ベルトを解除するには、解除ボタン **A** を押す

シフトポジションを切りかえる

シフトポジションの切りかえ方法と表示について



A シフトレバー

シフトレバーは、シフトポジション表示灯の矢印に従って、ゆっくり確実に操作してください。

N に切りかえるときは、矢印に沿って操作したあと、しばらく保持します。

シフトレバーを操作したあとは、シフトレバーから手を離してください。シフトレバーが定位置（●）にもどります。

B への切りかえは、シフトポジションが D のときのみ可能です。P から N・D・R、および N・D・B・R から P へ、または D・B から R、および R から D へ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

B シフトポジション表示灯

C P ポジションスイッチ

P ポジションに切りかえるには、車を完全に停止させ、パーキングブレーキをかけ、P ポジションスイッチを押してください。シフトポジションを P にすると、スイッチが点灯します。シフトポジション表示灯が P であることを必ず確認してください。

シフトポジションの使用目的について

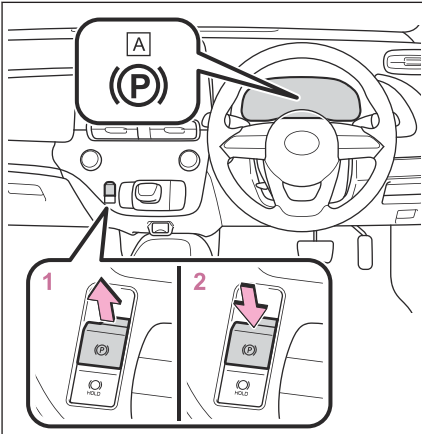
シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退

シフトポジション	目的および状態
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行
B	急な下り坂など、強いエンジンブレーキが必要なとき

パーキングブレーキをかける

■ マニュアルモード

手でパーキングブレーキをかける・解除することができます。



A パーキングブレーキ表示灯

1 スイッチを引き、パーキングブレーキをかける

パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを引き続けてください。

2 スイッチを押し、パーキングブレーキを解除する

- ブレーキペダルを踏みながら操作してください。
- パーキングブレーキ自動解除機能により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。

解除後、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

パーキングブレーキ表示灯が点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。

■ オートモードを ON にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを引き続ける。

オートモードを ON にすると、パーキングブレーキが次のように作動します。

- シフトポジションを P から P 以外にすると、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。
- シフトポジションを P 以外から P にすると、パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

■ メンテナンスデータ (抜粋)

以下は一部抜粋したデータのみ掲載しています。他の油脂類などは、表紙の QR コードからデジタル取扱説明書をご覧ください。

● 燃料

指定燃料	容量 [L] (参考値)
● 無鉛レギュラーガソリン ● バイオ混合ガソリン (レギュラー) *1	36

● エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L] (参考値*2)	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： トヨタ純正モーターオイル GLV-1 0W-8— JASO GLV-1、SAE 0W-8 適合： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-16— API SP/RC, ILSAC GF-6B, SAE 0W-16 トヨタ純正モーターオイル SP 0W-20— API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20 トヨタ純正モーターオイル SP 5W-30— API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30	3.2	3.5

● タイヤ・ホイール

■ サイズ・空気圧

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪
185/65R15 88S	15 × 6J	230 (2.3)	220 (2.2)
195/55R16 87V	16 × 6J	220 (2.2)	200 (2.0)
205/45R17 84W	17 × 7J	220 (2.2)	200 (2.0)

*1: エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン (酸素含有率 3.7%以下) を使用することができます。

*2: エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ ホイールナット締め付けトルク

トルク [N・m (kgf・cm)]
103 (1050)

● 電子キーの電池を交換するときは

- リチウム電池 CR2032 (GR SPORT を除く)
- リチウム電池 CR2450 (GR SPORT)

ETC/ETC2.0 ユニット車載器管理番号について

車載器管理番号シール

車載器管理番号シールを貼って大切に保管してください。

アクセサリパーツ取扱説明書掲載サイト

アクセサリパーツの取扱方法、安全に関する情報などを記載しております。
安全・安心にご使用いただくために、お持ちのアクセサリパーツについて、必ずお読みください。
本サイトは、お持ちのスマートフォンやタブレット、
携帯電話等にて QR コードを読み取りいただくか、下記 URL より閲覧してください。
なお、紙面で必要な場合はサイトより印刷いただくか、トヨタ販売店にご相談ください。



<https://manual-accessories.toyota/CAWeb/index.html>

お車の取り扱い方法、故障、修理に関するご相談については、お買い上げ
いただきましたトヨタ販売店、または最寄りのトヨタ販売店へお問合せください。
また、リコール情報については、右記の QR コードからご確認ください。

販売店検索



リコール等情報



トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号



お電話によるお問い合わせ



全国共通・フリーコール

0800-700-7700



WEBページからのお問い合わせ



インターネットフォーム
によるお問い合わせ



チャットによる
お問い合わせ



手話通訳サービス
によるお問い合わせ

各お問い合わせサービスのご利用・受付時間など詳細につきましては右記の QR コードからご確認ください。

「個人情報保護方針」については、https://toyota.jp/privacy_statement/ に掲載しております。



●ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証） をご用意いただくと、スムーズな対応が可能です。

●QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

トヨタ自動車株式会社
<https://toyota.jp>

